東向観音寺史料目録（一）

東向観音寺史料調査団

▼基本情報

住所　京都府京都市上京区今小路通御前通西入上る　観音寺門前町八六三

宗派　真言宗泉涌寺派

山号　朝日山

寺号　観音寺

本尊　十一面観音菩薩

調査にあたっては、観音寺住職上村貞郎様、副住職上村法玄様から種々のご配慮を賜った。厚く御礼申し上げる。

▼寺の歴史

近世の地誌（『雍州府志』『山州名跡志』）は、山本左大臣（藤原緒嗣）の建立とする。寺伝によれば桓武天皇の勅願によって創建され、当初は朝日寺と号したという。朝日寺はその住僧最鎮が北野天満宮創建に関わったことが知られるが、明治の神仏分離で廃された朝日寺は、天満宮本殿の西側に位置しており、二の鳥居西側にある観音寺とは別の寺院であった。また、延暦二十五年（八〇六）、藤原小黒麿が建立したという寺伝もあり、創建の経緯については不明な点が多い。

観音寺が史料上明確にその姿を現すのは、鎌倉時代末期に無人如導が中興して泉涌寺系の律院となってからである。如導は南北両朝の天皇や足利尊氏の帰依をうけたといい、数々の寺院を創建、復興するなど活躍し、延文二年（一三五七）観音寺で没した（『開山無人和尚行業記』）。

本尊の十一面観音は北野天満宮の本地仏とされ、中世に観音寺は神宮寺として認識されていた。その地位は、公文所および将軍御師として北野天満宮の実権を握っていた松梅院との親密な関係によると考えられる（『北野社家日記』）。堂宇が東方を向くことから、現在に至るまで東向観音寺という通称で呼ばれている。寺伝ではかつて西向の堂もあったとするが、その存在を示す確実な史料は見出せない。

慶長十二年（一六〇七）、豊臣秀頼によって北野天満宮が再建された時に建立されたと考えられるのが現在の本堂（京都市指定文化財）で、元禄七年（一六九四）に造合と礼堂が追加され、複合形式の建物となった。近世には松梅院との関係が薄れ、神宮寺に代わって北野社奥院（寺蔵慶安四年釣灯籠銘）の呼称が見られるようになる。また、洛陽三十三観音の第三十一番（『京羽二重』『西国洛陽三十三所観音霊験記』）として参詣客を集めた。

本堂正面

石造五輪塔

明治の神仏分離では、北野天満宮の仏教建築は多くが破却され、仏像も他に移されたが、観音寺は存続した。三の鳥居近くから境内に移された石造五輪塔は、四十九日の喪が明ける五十日目に詣でる「忌明塔」として知られ、ほとんどの洛中洛外図に描かれている。菅原道真母の墓という伝承があるが、鎌倉時代の作と考えられる。

▼調査の経緯

平成十四年（二〇〇二）三月、本尊ご開帳にあわせて細川武稔・小野澤眞の両名が参拝した際、未調査の史料があることを聞き、調査の承諾を得た。翌年二月の予備調査を経て、平成十六年（二〇〇四）八月までに三回の調査を実施し、今後も継続する予定である。調査団は細川を団長とし、東京大学の大学院生を中心としながら、関心のある

研究者に広く参加を募る形で構成している。現地では、個々の専門に応じ、聖教班と文書班に適宜分かれて作業を進めている。

これまでの参加者は次の通り（所属は調査当時）。

○予備調査（平成十五年二月二十日）

細川武稔、大塚紀弘（以上東京大学大学院博士課程）、阿諏訪青美（日本学術振興会特別研究員）、小野澤眞（武蔵野大学仏教文化研究所研究員）

○第一回調査（平成十五年八月一日～二日）

細川武稔、西田友広、大塚紀弘、遠藤珠紀、竹ノ内雅人（以上東京大学大学院博士課程）、岡本真、呉座勇一、小瀬玄士、矢野奈苗（以上東京大学大学院修士課程）、小野澤眞（武蔵野大学仏教文化研究所研究員）

○第二回調査（平成十六年二月二十九日～三月一日）

細川武稔、大塚紀弘、川勝守生、竹ノ内雅人（以上東京大学大学院博士課程）、児嶋貴行、松本貴智、村和明、岡本真、呉座勇一、矢野奈苗（以上東京大学大学院修士課程）、小川好美（東京大学文学部）、小野澤眞（武蔵野大学仏教文化研究所研究員）、三宅正浩（京都大学大学院博士課程）、河村昌輝（京都府立大学大学院修士課程）

○第三回調査（平成十六年八月三日～四日）

細川武稔、川勝守生、遠藤珠紀、竹ノ内雅人、杉山巖（以上東京大学大学院博士課程）、岡林彩子、瀬尾巧（以上東京大学大学院修士課程）、小野澤眞（東北大学大学院博士課程）、河村昌輝（京都府立大学大学院修士課程）

▼史料の現状と整理方法

現在、史料はダンボール函や木函に入れ、境内の蔵に収納されている。内容は聖教と文書に大別され、函の数は合わせて三十三ある。調査開始に際し、1から順に33まで番号を付けた。このほかに宝物を収める長持があり、これを0函と名付け、文字史料を中心に調査の対象とした。調査を終えた史料については、封筒に入れて整理している。

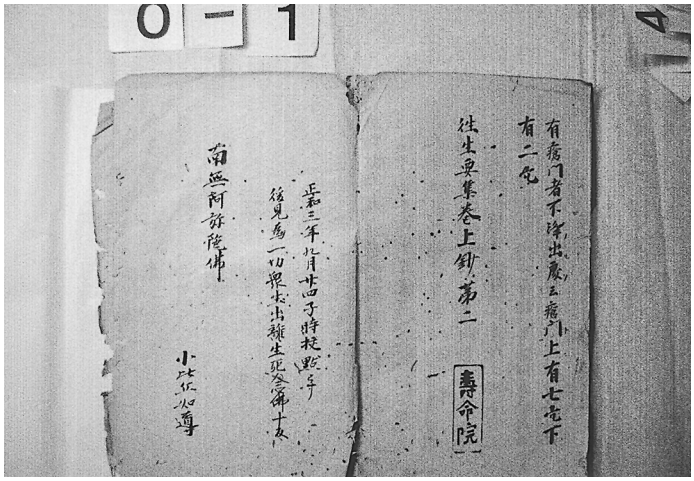
（以上文責・細川武稔）

【宝物・聖教編　主要史料紹介】　大塚紀弘・細川武稔

○往生要集巻上鈔第二・第三、同巻下鈔第一（0－1－1～3）

浄土宗鎮西義の良忠（一一九九～一二八七）による『往生要集』の注釈書『往生要集鈔』（以下『鈔』）三冊分の写本である。奥書から如導が書写し、正和三年（一三一四）九月から十月にかけて校合・加点したことが分かる。『開山無人和尚行業記』は、如導がこの頃、良智（鎮西義、仁和寺西谷法光明院長老）の下で浄土宗の修学に励んだことを伝えるが、本書及び同木箱に収められた端本（0－1－4、書名不詳の浄土宗関係聖教で本書と同一筆跡）からその模様を垣間見ることができる。

『国書総目録』の「往生要集鈔」項によると、三巻構成で、写本が龍谷大（一冊）、金沢文庫（一冊）、尊経閣文庫（貞治二年写、八冊）に、寛永三年（一六二六）の版本が大谷大（四冊）、竜谷大（四冊）、お茶の水大（八冊）に同五年の版本が京都大（八冊）に所蔵されるという。このうち金沢文庫のものは『金沢文庫資料全書4浄土篇1』（神奈川県立金沢文庫、一九八〇）に翻刻があり、法然による別著の承久三年（一二二一）写本と確認される。



往生要集卷上鈔第二

大谷旭雄「『往生要集義記』について」（『浄土学』三六、一九八五）によると、『鈔』は同じく良忠による『往生要集』の注釈書として知られる『往生要集義記』（以下『義記』）と同系本で、寛永十八年版本を最古とする『義記』は寛永三年版『鈔』を底本に名称を改めて開版されたものという。元治元年（一八六四）に校訂・再刊された『義記』が『浄土宗全書』一五に収められており、これと本書を比較すると、本書の本文は多少の語句の異同を除いて『義記』に見出せるが、本書に無い箇所が『義記』に多く存在する。こうした差異の解釈には他の写本・版本との比較検討が不可欠である。

なお、三冊とも表紙裏及び巻末に「寿命院」の蔵書印が押されている。寿命院は戦国期に泉涌寺末寺であったことが確認でき、慶長五年（一六〇〇）に西京中保町から泉涌寺内に引き移されたという（泉涌寺蔵『寺改帳』）。旧地は東向観音寺に近く、如導ゆかりの寺院と考えられる（現廃絶）。

（大塚）

○東向観音寺縁起（0－5）

数種類残る縁起は、すべて江戸時代に作成されたもので、類似した内容を持つ。いずれも、北野社創建以前から存在した朝日寺を観音寺の前身とし、本尊十一面観音を菅原道真自作とする点に特徴がある。北野社の本地仏は平安末期にはすでに十一面観音とされており、本縁起中でも本尊は天神の本地仏とされている。本尊は現在、二十五年に一度の開帳で（前回は平成十四年）、普段は拝することができないが、様式上鎌倉時代の作と考えられる。鎌倉末期の無人如導による中興と

現在の本尊の安置とは関係があるかもしれない。足利尊氏の帰依を強調している点は、室町幕府がその開創当初から北野社を重視していた事実と対応する。古い由緒を述べ、霊験を宣伝するのは、参詣客を集めるために作成された寺院縁起に共通してみられる特徴である。

（細川）

〔翻刻〕

抑當寺ハ桓武天皇の勅願によつて皇城鎮護のために御建立あり、朝日寺と号け給ふ、嘗菅相丞御在世の時ハ此地の閑静を愛し常に逍遥し給ひし旧地也、薨去の後天暦元年未の三月江州比良の祢宜良種か子に託宣ありて當寺の住僧最鎮と諸共に奏聞を遂同年六月九日此北野に移し奉れり、其後應和元年六月勅宣によつて此本尊を築紫の観世音寺より請し奉りぬ、是則天満宮の御愛木松梅を以て自ら営作し給ふ所の尊像也、是によつて世に二木の観音と称し奉りて則天神の御本地佛也、其後應長二年中興開山無人宗師に當寺を給ふ、此宗師ハ元天神の神託によつて出家し給ふ人也、往昔花園・後醍醐・光厳・光明御朝の天子叡信浅からすして此時に彼築紫の観世音寺に擬して朝日寺を観世音寺と改め給ふ、又将軍尊氏朝臣築紫より上洛の砌り其軍船に観世音菩薩影向し給ふ、是によつて合戦勝利を得て其後當寺に詣て、尊容を拝し奉るに船中影向の尊像に少も違ひたまハねは、大イに感嘆して佛閣僧坊を建立し給ふ、中にも東向西向の堂あり、今ハ此東向の堂而已有ゆへ世に東向の観音と唱へ来れり、今の堂ハ忝も東照大神君の鈞命によつて建立し給ふ所也、世の人昔より利運を得て一世の功を成んと柳の枝を捧て大願を籠奉るに成就せすと云事なし、又願ひを北野に籠る人ハ先當寺に詣て、事を祈るも宜哉、天満宮の御本地佛にて世に尊き霊像にてましますゆへなり、

○廻向双紙（0－11）

内題に「例時法則　泉涌寺伝」とあり、阿弥陀経廻向、施食作法、時食作法、布薩、楞厳会廻向など三十余の項目を挙げて廻向文・偈を載せる。万延元年（一八六〇）の泉涌寺蔵『泉涌寺維那私記』に幾つか同一の項目が見え、泉涌寺における儀則を伝えるものと確認される。本文の多くに宋音による加点音注が片仮名で施されているが、湯沢質幸「宋音」（『国語と国文学』六一－二、一九八四）によると、宋音は鎌倉前期に入宋した俊芿が将来し、現在でも泉涌寺の法会で用いられているという。湯沢氏は同寺に現存する宋音史料は古くとも江戸後期頃としており、明暦元年（一六五五）七月下旬書写の奥書を持つ本書は宋音史料としても注目される。

（大塚）

○二月作法／十一面悔過（5－19）

観音寺関係者の忌日一覧と思われるものが記されている点で注目される。三律祖とされる南山大師（道宣、三日）、霊芝律師（元照、一日）、大興律師（俊芿＝泉涌寺開山、八日）や、開山の無人如導（廿七日）らの名が見える。慧澄上人（九日）、見崇律師（一日）及び見海和尚（七日）は、現存する位牌によればそれぞれ観音寺の二世、九世、十二世。見海は中世末期の『北野社家日記』に頻出する。その他の中世における歴代住持については不明な点が多いが、この一覧の中

に含まれている可能性が高い。

〔忌日一覧〕

一日　霊芝律師、浄蓮禅尼、應政闍梨、景雄大僧都、見崇律師、残骨禅門、善西禅門、妙西禅尼、季範比丘

二日　□丸大和尚、慶法禅尼、窓日徳友、宗白信士

三日　南山大師、玄斉信士、政意僧都、浄祐禅門

四日　妙蓮禅尼、権大僧都雄栄、妙喜信門

五日　見在和尚、秀海法印、呉筌西堂、能也大徳、妙清禅尼

六日　□寧上人、玄盛和尚、秋得寿清禅尼、法春大姉、宗甫信士、浄福禅門、妙讃禅尼、清玄童子

七日　見海和尚、月休浄運信士、政□法印、宗貞禅門、道大、浄専禅門、道□禅門、妙□信尼、久世禅門、道喜禅門

八日　大興律師、栄快法師、妙安信尼

九日　慧澄上人、覚俊法師、蓮哲和尚、妙判信尼

十日　兀兀宗師、覺性禅尼、源知童子、残世禅門、残意、残雪、残霜、残苔、残聲、残電禅門

十一日　月閑宗秋童子、宗語信門

十二日　本室宗心禅門

十三日　妙意禅尼、哲西禅門、珠清禅尼、竹叟西堂、□昌法師、誓順禅尼、妙意禅尼、妙清禅尼

十四日　玄才禅門、耀月、妙栄

十五日　聖清大和尚、見陽律師、玄休居士、妙源禅尼、無風法師

十六日　澄然大和尚、妙雪禅尼、能冨大徳

十七日　快尊僧都、宗休信士、穐伯禅門

十八日　如周和尚、宗印

十九日

廿日　後光明院尊儀、大猷院殿尊義、勢秀西堂、梅雪利春、能源大徳、夏月童子、妙泉禅尼

廿一日　真言高祖弘法大師、妙休禅尼、宗椿禅門

廿二日　栄町法印、宗心禅門、妙宗禅尼、宗弘信門

廿三日　清操上人、普公律師、妙源大姉

廿四日　正見律師

廿五日　月坊妙清ー、暾呉宗師、利安禅門、誠蓮上人、妙賀信尼、陽贈西堂、信要法師、道忠禅門

廿六日　空泉僧都、宗寿信門、寂温律師

廿七日　浄意禅門、宗清禅門、當寺開山無如導和尚

廿八日　正節大和尚、宗普信門、浄心禅門

廿九日　導意禅門、栄信禅尼、残影禅門、宗林禅門

晦日　尭蓮上人、慈禅西堂

（細川）

○南都北京受戒事（5－20）

外題に「南都北京受戒事」とあるが、貞慶（一一五五～一二一三）著とされる『南都叡山戒勝劣事』と多少の語句の異同を除き同文である。『国書総目録』の「南都叡山戒勝劣事」項によると京都大及び東大寺に写本が所蔵されるという。また『日本大蔵経』及び『大日本仏教全書』に翻刻がある。本書は奥書から天正三年（一五七五）に光照が東大寺新禅院西坊において書写したことが分かる。光照については、

『日本大蔵経』に所収される『菩薩戒通別二受鈔』の奥書に「此本者、於南都招提寺東室泉奘和尚以御自筆写之、天正十一歴十月六日、八幡寿福院小比丘光照〈夏十二、別四、生廿九〉」と見える光照と同一人物の可能性がある。なお、八幡寿福院は他に所見が無く、『招提千歳伝記』に唐招提寺の枝院として挙げられる八幡の寿徳院の誤りと思われる。

（大塚）

【宝物・聖教編　史料目録　凡例】

・0函、2函、5函を対象とする。目録の形式は聖教に合わせたため、0函の一部には必ずしも適さないが、そのまま用いた。
・函から取り出した順に番号を付けた。一つのまとまりと考えられるものは、同じ番号とし、それぞれに枝番を付けた。
・名称は、内題を採用することを基本とした。外題や尾題から採用した場合及び調査団員の判断で名称を付けた場合は、（　）で括った。
・成立は、書写された時代を示した。
・法量は、タテ×ヨコ。単位はセンチメートル。冊子形態のものは表紙を測定した。巻子装や続紙でヨコの全長を測定するのが困難な場合は、各紙の内で最も長さが平均値に近いと考えられる紙の長さを記入し、第何紙かを（　）内に示した。
・紙数は、冊子形態のものについては丁数を示した。表紙は共紙表紙の場合のみ数に含めた。折本装の場合は折山の数を示した。
・奥書は、意味上の区切りをともなう改行の場合、その位置を／で示し、奥書が複数ある場合はその境を／／で示した。
・外題は、題名のほか、表紙に記されている文字をすべて示した。
・備考では、箱や包紙の情報のほか、印記、訓点など、注目すべき事柄を記した。
・朱筆及び朱印は『　』で括った。
・虫損等により判読できない箇所は□で表した。
・史料目録は、大塚紀弘・杉山巖の協力を得て、細川武稔が作成した。

奥書	外題	備考
正和三年九月廿四子時校点畢／後見為一切衆生出離生死念仏十反／南無阿弥陀仏／小比丘如導		箱入／蓋表「無人宗師真蹟／往生要集鈔三巻　第一第二第三」／印「寿命院」
正和三年十月六日子時校点畢後見為一切衆生出離生死念仏十反／南無阿弥陀仏々々々々々々小比丘如導	『往生鈔　良忠』	箱入（0－1－1と同一）／印「寿命院」
正和三年九月廿四日卯時一交畢／後見為一切衆出離生死頓証菩提念仏十反／南無阿弥陀仏／小比丘如導		箱入（0－1－1と同一）／印「寿命院」
		箱入（0－1－1と同一）／内容は問答形式／0－1－1～3と同筆か
嘉永四年〈辛亥〉霜月吉旦　北野東向観音寺		
元禄六年酉九月六日　（差出）北野東向／訴訟人　観音寺／五十嵐市郎兵衛方門／（宛所）御奉行様		本堂増築の願／境内図あり
元禄八年亥十月廿七日　（差出）北野東向／訴訟人　観音寺／（宛所）御奉行様		端裏「上　白衣堂之　泉涌寺末寺／北野東向／訴訟人　観音寺」／白衣観音堂移築の願
右依本云正二報題目都盧十八ヶ条存略如斯矣題目難禅辞〈南禅寺者借音也〉金剛仏子（梵字）／慶長十三載正月上旬以蘭友御菴室本模写記秘蔵々々／／于時慶長十六ノ仲冬ニ武州江戸ニテ書之カノチハ頼慶ノカキカケニテシ□タモウヲノチウツシツクナリ	南禅抄／龍厳俊善	

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	1	1	往生要集巻上鈔第二	鎌倉	紙本墨書	粘葉装	25.5×15.6	55
0	1	2	往生要集巻上鈔第三	鎌倉	紙本墨書	粘葉装	25.6×15.7	68
0	1	3	往生要集巻下鈔第一	鎌倉	紙本墨書	粘葉装	26.0×15.7	54
0	1	4	(不明)	鎌倉	紙本墨書	粘葉装	26.4×16.6	66
0	2		天満宮御本地神作二樹十一面観世音並天神自画真相略記	江戸	紙本墨版	竪紙	28.2×40.2	1
0	3		(東向観音寺縁起)	江戸	紙本墨書	続紙	29.7×47.0(2)	5
0	4		天満宮御本地仏東向観音寺十一面観世音りやくゑんぎ	江戸	紙本墨版	竪紙	28.5×40.4	1
0	5		(東向観音寺縁起)	江戸	紙本墨書	続紙	29.6×38.1(2)	4
0	6		(東向観音寺縁起)	江戸	紙本墨書	続紙	29.8×35.8(2)	2
0	7		(北野東向観音寺願書写)	江戸	紙本墨書	続紙	29.1×87.6	2
0	8		(北野東向観音寺願書写)	江戸	紙本墨書	竪紙	29.0×44.6	1
0	9		洛陽北野観世音律寺鐘刻	不明	拓本	切紙	38.8×27.5	1
0	10		難禅辞	江戸	紙本墨書	粘葉装	22.3×16.6	17

奥書	外題	備考
明暦元年／夷則下旬　書之	廻向双紙／宗雄□□□雄持	包紙「廻向双紙　泉涌」／仮名（宋音）
本奥記云／已上作法者先年高野奥院百箇日参籠之砌也不動護摩修之于時奉受師主法印御口決記之畢／求法沙門成ー賢／／嘉禄元年十月七日於東大寺中御門書写畢／叡ー尊	不動護摩私記　息災／金剛資（梵字）	
長承三年潤十二月十九辰時書了／同廿日巳時校点了	不動儀軌／僧乗賀之	
文永二年七月七日鳴瀧御所書写畢同八日一校了自今年二月至于当月此御記之類十一巻蒙隆澄厳□了為百日御手替之忠賞由被仰下者也巻々添燈事々消暗右之賢慮与今之恩賜而感遮心双涙涙瀝手倩思五十年之習学不及三四月之救閲／理智院僧正御房自筆本也／相伝々書末書繁故略之／／于時大永三年〈己未〉六月四日有御方ヨリ御本申請写了是偏為令法久住利益人天志計也／増恩	御記　竹ー／増秀／理智門	
	多聞天法／於白河院御壇所奉受之／承安三年六月廿二日	
本云／文和三年三月十一日於東寺西院僧坊奉受大弐僧都御房畢／／天和三年〈癸亥〉五月廿七日書写之　福勝寺尭遍上人	念誦中間立座作法	
天和二壬戌年正月吉旦／謹／献／歳神宮下　釈　宏源　合掌	先師宏源西堂手筆／信啓護持	箱入／蓋表「先師和尚墨蹟信啓」／印『宏源』
右金字般若心経一部自書写之以寄附東向観音寺仰冀資祖先之冥福増家門之後栄子孫永久千秋万歳也／正徳五歳季春上旬／従二位行権大納言藤原朝臣兼香		箱入
此菩薩戒儀者某氏信士受戒之次将我霊芝祖師所製粗雖取捨言句毫又不廃公意新粧授儀啻輔時用故於首題不塵祖号唯言授大乗戒儀等実有改変文辞之憚者歟具出芝薗余編後世当補其□云京北上林苑観世音律寺釈宏源謹書于後即／寛文七年歳次丁未臘月念一日也	梵網経受戒儀　一巻	箱入（0−18と同一）／巻首「北野観世音律寺比丘　宏源」

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	11		例時法則　泉涌寺伝	江戸	紙本墨書	大和綴	26.2×20.6	10
0	12		不動護摩私記　息災	江戸	紙本墨書	粘葉装	16.6×16.3	36
0	13		金剛手光明灌頂経最勝立印聖無動尊大威徳王念誦儀軌法品一巻	室町カ	紙本墨書	粘葉装	18.3×14.7	30
0	14		（御記　竹ー）	室町	紙本墨書	綴葉装	17.2×16.3	34
0	15		多聞天法	江戸	紙本墨書	粘葉装	17.6×16.8	10
0	16		念誦中間立座事	江戸	紙本墨書	折装	26.4×37.0	1
0	17		吉書	江戸	紙本墨書	掛幅	22.7×32.2	1
0	18		仏説摩訶般若波羅蜜多心経	江戸	紺紙金泥	巻子装	38.6×104.8	1
0	19		授大乗菩薩戒儀	江戸	紙本墨書	巻子装	24.3×36.1(3)	24

奥書	外題	備考
元禄十三年庚辰冬十一月奉書写供養法華普門品一巻奉納観世音寺真前令僧侶読誦以祈家運長久矣／従三位源輝子		箱入（０−18と同一）
幻□室南谷書		箱入（０−18と同一）／参考：続群書類従９上
	正法国師真蹟　信啓	箱入／蓋表「泉涌正法国師真蹟　北野観音寺信啓」
承久元年十月　日疏／幹縁比丘／都勧進新入宋学法比丘　俊芿		箱入／蓋表「泉涌寺開山御真筆」
東向観音寺／此観音講式一巻依僧鎧長老懇望令書写畢／文化六〈己巳〉年八月日／右大臣皇太子傅（花押）		箱入／蓋表「天満宮御神作／十一面観音講式」／蓋裏「菅廟御作十一面講式当寺重宝也／一條右大臣春宮大傅忠良公玉毫／文化八年七月拝領之僧鎧誌」
宝永三年歳次丙戌五月穀旦／住持比丘信啓記／／宝永丁亥歳孟夏下旬書之／正二位（花押）		箱入
宝永二年十二月十日輝子稽首敬白		箱入（０−25−１と同一）／三十三所観音像安置の趣意を述べる
寛政三年［　　］十月中旬［　　］		箱入／蓋表「篩聖天供之用百四十二号」
享保九年夏四月中旬／権大納言藤原公緒書		箱入（０−26と同一）
宝暦十三年六月従一位藤原朝臣道香		箱入（０−26と同一）
正徳元年棘心黄鐘上浣　備前四位少将源綱政		箱入（０−26と同一）
		箱入／竹居明男『天神信仰編年史料集成　平安時代・鎌倉時代前期篇』に影印と略解題あり
右記文縁起一冊以上林苑観世音寺所伝来之古書因僧鎧懇望写之遣畢／文化九年六月廿四日／権中納言菅原為徳		０−30−１の写／箱入（０−30−１と同一）
	灌頂治承記	

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	20		妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五	江戸	紙本墨書	巻子装	29.0×48.0(1)	7
0	21		(無人和尚行業記)	江戸	紙本墨書	巻子装	30.6×124.5(7)	9
0	22		(正法国師真蹟)	不明	紙本墨書	掛幅	28.0×23.1	2
0	23		(泉涌寺勧縁疏写)	江戸	紙本墨書	巻子装	40.9×89.4(2)	5
0	24		十一面観音講式	江戸	紙本墨書	巻子装	35.4×49.8(2)	10
0	25	1	巡礼観音安置記	江戸	紙本墨書	巻子装	31.5×50.2(2)	3
0	25	2	(一条輝子敬白文)	江戸	紙本墨書	巻子装	31.4×48.8(1)	2
0	26		大金剛輪陀羅尼	江戸	紺紙金泥	巻子装	9.7×42.4(2)	3
0	27		仏説一切如来金剛寿命陀羅尼経	江戸	紙本墨書	巻子装	20.0×37.2(2)	2
0	28		(妙法蓮華経観世音菩薩普門品)	江戸	紙本墨書	巻子装	22.7×31.0(2)	2
0	29		妙法蓮華経観世音菩薩普門品	江戸	紙本墨書	巻子装	22.9×49.6(2)	5
0	30	1	北野御託宣并記文縁起	室町	紙本墨書	粘葉装	25.0×15.7	33
0	30	2	北野御託宣并記文縁起	江戸	紙本墨書	粘葉装	25.0×16.4	36
0	31		三宝院伝法灌頂私記	江戸	紙本墨書	巻子装	33.2×44.3(2)	24

奥書	外題	備考
御本記云／以三宝院経蔵本書写交点畢／是則恒例結縁潅頂被用之本也／金剛仏子憲一／／正和三〈甲寅〉十一月晦日於上醍醐寺狩尾多聞院賜御本書写之　二交了　金剛子果済〈生年四十七〉／／承応三〈甲午〉載六月廿四日於醍醐寺報恩院前大僧正寛済賜相承古本書功成矣　尊宜／『同七月五日賜別御本一交了是伝受已後也』／／延宝六〈戊午〉年三月中旬於上醍醐寺従有雅僧正伝授之了／釈慶宜	結縁潅頂三昧耶戒作法	
		縮尺200分の１／行者堂移転前後の場所を示す
于時文久二祀壬戌禊月末資小子了真稽首拝欽誌		開明門院は桃園天皇母
十一月十六日　（差出）信光□　（宛所）秀道律師		
		日程は８月20日から25日まで
十二月九日　（差出）信光奉　（宛所）秀道慧御房／一定慧御房		端裏「高光寺石蔵院主寄」
三月廿九日　（差出）信光奉　（宛所）秀道律匠／慧蔵□□		
右五條／知事／文政四巳十月／／此一條者在高井田寺禅那台内謹請以拝書畢／天保十二辛丑年二月　教節識		

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	32		結縁潅頂三摩耶戒作法胎蔵界	江戸	紙本墨書	巻子装	23.5×29.8(2)	16
0	33	1	(胎蔵界大日如来像及び曼荼羅図)	江戸	絹本著色・紙本著色		47.3×20.5	1
0	33	2	(金剛界大日如来像及び曼荼羅図)	江戸	絹本著色・紙本著色		47.8×20.6	1
0	34		(某書幅)	明治	紙本墨書		111.7×44.2	1
0	35		朝日山観音寺境内配置図	大正～昭和	紙本墨書	折装	38.1×56.9	1
0	36		(開明門院尊肖影賛)	江戸	紙本墨書	竪紙	25.0×33.3	1
0	37		(某願文)	江戸	紙本墨書	切紙	16.7×45.5	1
0	38		(信光書状)	江戸	紙本墨書	折紙	25.0×46.3	1
0	39		(某書状)	江戸	紙本墨書	折紙	33.4×45.0	1
0	40		(開山光尊者等報恩謝徳潅頂執行日限)	江戸	紙本墨書	竪紙	34.7×46.2	1
0	41		(和歌書付)	江戸	紙本墨書	切紙	16.2×25.8	1
0	42	1	(輪番等書付)	江戸	紙本墨書	切紙	24.2×34.4	1
0	42	2	(書付)	江戸	紙本墨書	切紙	24.7×34.3	1
0	43		(信光書状)	江戸	紙本墨書	切紙	15.5×23.6	1
0	44		(信光書状)	江戸	紙本墨書	切紙	17.8×21.9	1
0	45		(某書状)	江戸	紙本墨書	続紙	16.6×28.2	2
0	46		院内条目	江戸	紙本墨書	続紙	24.6×66.8	2
0	47		山口豆州牧碑銘	江戸	紙本墨書	続紙	30.9×65.2	2

奥書	外題	備考
右自問自心自可答之		
		包紙「洛東岡崎町御所之内／若州藩繻臣／都築友正筆」
		包紙（０-50-１と同一）
		包紙「枝折一枚／春露之哥ハ高松某郷之御詠也／芳野山のうたハ高井田帰堂□□□也」
	右明治卅四辛丑冬日調　上村誌	
	昭和卅年十二月一日／岩雲弁才天護摩修行／寄進芳名簿／東向観音寺／／『家運長久商業繁昌祈願　岩雲弁才天』	
	第弐百三拾七号／修繕費篤志募集録／京都市北野東向観音寺（印）『東向観音寺印』	明治28年遷都紀年祭に向けて修繕を計画
	（印）「昭和23．11．5うえむら」／世継観音縁起	
明治三十三年一月／東向観音寺住職／上村宝厳謹白	東向観音寺修営浄財募疏	明治35年菅神一千年祭に向けて修繕を企図
	高王白衣観世音参拾参躰観世音御開扉奉加帳／京都市北野／東向観音寺	昭和28年の開帳に際して作成
享保十一年二月八日／八十一翁阜嵓／謹写		包紙

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	48		尊経五問	江戸	紙本墨書	切紙	53.5×24.8	1
0	49		(五大明王梵字)	江戸	紙本墨書	切紙	17.3×8.1	1
0	50	1	(明治正義卅六歌撰)	明治	紙本墨書、台紙に貼付	折本装	15.7×15.5	7
0	50	2	(明治正義卅六歌撰写)	不明	紙本墨書	仮綴	22.0×14.8	5
0	51		(枝折)	江戸	板絵墨書		20.8×5.7	1
0	52	1	(和歌)	江戸	紙本墨書	竪紙	24.7×33.9	1
0	52	2	(和歌)	江戸	紙本墨書	竪紙	24.7×33.8	1
0	52	3	(連歌発句)	江戸	紙本墨書	竪紙	24.9×33.5	1
0	53		(観音寺住持等忌日書付)	明治	紙本墨書	折紙	32.9×24.0	1
0	54		(岩雲弁才天護摩修行寄進芳名簿)	昭和	紙本墨書	袋綴装	23.3×15.7	5
0	55		(修繕費篤志募集録)	明治	紙本活版	袋綴装	22.2×14.9	9
0	56		江州瑞石山永源寺世継観世音菩薩略縁起	不明	紙本墨版	袋綴装	27.0×19.3	5
0	57		東向観音寺修営浄財募疏	明治	紙本墨書	袋綴装	27.4×20.3	5
0	58		(高王白衣観世音参拾参躰観世音御開扉奉加帳)	昭和	紙本墨書・活版	袋綴装	24.2×17.0	4
0	59		(白衣観音像・三十三体観音像写真)	不明	写真		8.7×13.8	1
0	60		(中御門天皇宸翰写)	江戸	紙本墨書	巻子装	36.8×99.6(2)	2

奥書	外題	備考
為菩提附与之／貞享四年〈丁卯〉／浄心院妙冷真女日然／九月十三日／／寛文五〈乙巳〉歳／秋夢童子／七月十七日／／寛文十〈庚戌〉年／梅学林清童女／正月六日		箱入／蓋表「つれつれ草」
		箱入（0-61-2と同一）
比丘智満拝書		包紙「両界種子曼荼羅」
天正五年三月廿三日於山門楞厳院元三坊令書写畢／飯室谷円乗院良信為後生善処也其後無動寺千年院秀仙大阿闍梨以御本書写則令伝受事者物詣清水寺／西院松之坊住明乗／／慶安五年九月廿三日□悲母妙清禅尼忌日也願以此功徳霊魂令成仏給へ	引導作法	
	奉納	八十八ヶ所の朱印あり
文和二年三月上旬於禅舜寺受此口決同中旬之間記之畢／金剛仏子寥源／／寛文二歳卯正月上旬於城州宇治田原厳松律院以和州海龍王寺之本書写授合畢／金剛資恵猛／／于時亦延宝五年己七月下旬於河州志記郡南木本薬師堂写之畢／律宗宗中	十八道私記口決　松橋英心方	
	金剛界念誦次第	
文治三〈丁亥〉三月五日為付法記之沙門勝賢／付門葉上首／／御本云／応安二三月廿九日　於東蔵寺二階坊以醍醐遍智院宮聖尊御本写畢　御／／文明九〈丁酉〉三月二日　書写珪俊授珪鏡阿闍梨／／永正七年三月七日　珪勝伝／／同十五年八月十六日　本秀／／大永八年〈戊子〉五月十七日　書写之　尊誉〈六七歳三七夏〉／相伝尊員	護身法水丁／宏源	印『北野観音寺』『宏源』
明暦丁酉之夏書写之了／弟子宏源拝書／已上染毫三十張一匡合了	『醍醐三宝院大事』／秘印明口説／北野観音寺／宏源本	
延宝第三〈乙卯〉八月下旬於薩国宝成就寺以照盈師本書写了	異本即身義／澄盈／殊盈	
梵網伽伽之二本第二道叡諳誦考試之辰以愚毫模写畢／于時安政六〈己未〉七月十八日起首廿四日已　小沙弥道応誌	梵網菩薩戒経	印『道雄』

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
0	61	1	（徒然草　上）	江戸	紙本墨書	綴葉装	16.7×16.1	126
0	61	2	（徒然草　下）	江戸	紙本墨書	綴葉装	16.7×15.9	100
2	1		（両界種子曼荼羅）	江戸	紙本金泥	切紙	16.4×8.5	1
2	2		引導秘法　恵心流	江戸	紙本墨書	袋綴装	14.2×10.6	23
2	3		（四国八十八ヶ所納経帳）	明治	紙本墨書	袋綴装	24.0×16.8	49
2	4		十八道私記口決　松橋方英心流	江戸	紙本墨書	粘葉装	16.0×17.2	40
2	5		金剛界念誦次第	江戸	紙本墨書	粘葉装	16.9×17.1	67
2	6		護身法灌頂法	江戸	紙本墨書	粘葉装	24.9×15.9	11
2	7		醍醐三宝院大事	江戸	紙本墨書	綴葉装	24.9×15.9	29
2	8		即身成仏義	江戸	紙本墨書	大和綴	26.2×20.3	30
2	9		梵網菩薩戒経	江戸	紙本墨書	大和綴	28.0×20.2	25

奥書	外題	備考
梵網瑜伽之二経弟子道叡諳誦考試之辰以拙毫拝写恐有誤字後賢正之云々／于時安政第六歳在〈丙未〉上秋下澣　小沙弥道応識	菩薩戒経／弥勒菩薩説　唐三蔵法師	印『道雄』
右記山門止観院八部尾蓮華院大僧都法印最珍／賜御本宝永三〈丙戌〉年四月三日拝写　即心謹記／／山門北嶺紅葉溪蓮華院大僧都法印最珍／以右御本宝永三〈丙戌〉年四月五日　仏子即心謹敬写〈春秋二十九〉	含光記／歓喜天儀軌	二種類の聖教を一冊に綴じる
（巻上奥書）右以東向観音律寺御本書写畢／寛文十二壬子歳九月吉辰　所持教円房／右以洛陽埜薬師院本令書写畢／／右以東向観音律寺本写畢／寛文十二〈壬子〉年九月吉辰　護持教円坊／／（巻中奥書）右以観音律寺本書之訖／寛文十二〈壬子〉年九月吉辰　護持教円房／／（巻下奥書）右以観音律寺本書之訖／寛文十二〈壬子〉年九月吉日　護持教円房／／元禄九〈丙子〉年七月吉日／従山門横川鶏頭院大阿闍梨厳覚／大阿闍梨亮応欣求之／／宝永三〈戊〉年四月十有九日　入壇伝法遍照金剛即心拝写	歓喜抄　全　不許他見	
	作持門詞句要集／上村	
延宝七龍集己未雪月吉日	十住心義林　本末／護持照快／／十住心義林／護持照快房	
『貞享二年十月廿七日巳剋在病席一巨合了／信啓』	野金口決鈔全　『侵』　□	句切点
	心経法則	句切点
	法衣備覧　全	
		印『宏源』
京都　北野　東向観音寺	仏遺教経	仮名／声点／節博士
文永二年〈乙丑〉潤四月廿六日鈔出之／偏為正法久住利益有情也叡尊　（異筆）本願律寺玄龍求之		
大日本国乙卯歳大蔵都監奉勅彫造		
		句切点

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
2	10		瑜伽戒本	江戸	紙本墨書	大和綴	38.0×19.7	26
2	11		含光記／大聖天歓喜双身毘那夜迦法儀軌一巻	江戸	紙本墨書	大和綴	27.8×20.4	19
2	12		歓喜抄	江戸	紙本墨書	大和綴	27.9×20.6	38
2	13		（作持門詞旬要集）	明治	紙本墨書	不明	25.5×17.6	168
2	14		十住心義林	江戸	紙本墨版	仮綴	25.2×17.7	43
2	15		野金口決鈔	江戸	紙本墨書	大和綴	25.8×18.5	41
2	16		般若心経法則	江戸	紙本墨書	仮綴	16.6×23.7	9
2	17		法衣備覧	江戸	紙本墨書	大和綴	24.2×16.5	12
2	18		金光明最勝王経善生王品第二十一	江戸	紙本墨版	折本装	26.2×9.4	39
2	19		（仏遺教経）	江戸	紙本墨版	折本装	28.1×8.9	72
2	20		（応理宗戒図釈文鈔）	江戸	紙本墨版	折本装	29.8×8.8	30
2	21		撰集三蔵及雑蔵伝	江戸	紙本墨版	折本装	26.4×9.6	30
2	22		（妙法蓮華経巻第二）	江戸	紙本墨版	折本装	26.4×10.3	44

奥書	外題	備考
		裏書あり
此書者宮城薬王寺住禅海法印之真毫伝受時授与法印秀海	心識図解／亮海	
建久八年十一月七日於醍醐寺三宝院道場所奉受／師云前権僧正〈成賢〉御房大事雖不可及紙筆恐廃亡之故粗記畢嫡流一人之外不可及他見并書写努々々々／法印権大僧都憲一御判有之／／大永六年〈丙戌〉八月十六日写之畢／深海之／／于時天正十七年〈己丑〉四月八日巳具書之／右本日比念願之剋依不可思義縁ニ書之不可他望如頭目思関東常陸国下ツマ文殊院資頼音房／恵伝（花押）廿七／末ノ紙一丁ハ号檀那角田若狭守小野里対馬守〈予〉住山之音信上裹之紙〈十六〉件恩報此一大事書者也依此志両旦那現受无比楽後生清浄土惣十方群類一仏蓮台而已／／文禄四年正月十四夜以他本自校了件本ニ当本奥〈建久八年憲一等〉書無之校本ノ奥書ニ云／／御本云／若我入滅之後於此書対両人不可開斯ヲ背此旨者忽可蒙金剛天等持罰也如此注事定雖可有其罪但我久尽求法之志如此親交秘密口伝了然ニ依愚蒙従後日亡失後悔定可有故少々記之何況輒此条披露セハ其罪難遁者也穴賢々々／イニトテ同本之追加ニ／于時建長第六年之暦三月廿一日如実記之云々／一交了／弘円云々／／弘長元年七月廿六日書写了依宿縁蒙許証書写了条大師冥助可仰可悦而已／金剛仏子隆源／／上ハ昏云／隆源ト者大教房也賀茂空観上人写瓶之資也空観上人ハ実賢僧正写瓶也山本覚済僧正ハ実賢付法ナレトモ早クヲクレ給故ニ空観ニ写瓶シ給也／同本ノフタカミニ注加私云／此書ハ是賀茂空観記也相伝□仁於作者異説歟此書巻物也云々／明師者遍知院僧正成賢也頼賢ハ意教上人也云々　又口書ニ	亮云此書近年可用心者／醍醐三宝院大事／観音寺恵伝／法印宥伝／法印宥憲／法印宥玄	表紙裏「灌頂印明口伝少々記之／閉眼之剋対上根上背機一人授之雖不及紙筆予依為愚鈍明師口決乍恐記之／金剛仏子憲深」／印『妙智院』

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
2	23		(培斎銑詩詠)	江戸	紙本墨書		137.4×31.9	1
5	1		啓請十六大阿羅漢献供儀	江戸	紙本墨書	続紙	23.4×31.0(3)	3
5	2		(涅槃会祭文)	江戸	紙本墨書	折本装	18.8×7.8	22
5	3		(伝法灌頂儀式次第)	江戸	紙本墨書	折本装	15.9×11.8	18
5	4		心識図解	江戸	紙本墨書	粘葉装	18.3×17.3	4
5	5		(某次第断簡)	江戸	紙本墨書	断簡	15.9×16.2	1
5	6		醍醐三宝院大事	桃山	紙本墨書	折本装	16.3×12.5	8

奥書	外題	備考
(54頁よりつづく) ／明師口決乍恐記之／金剛仏子頼一賢云々／以上校本之分／／私頼一トハ大法印頼喩御事ナルヲ後人不知故ニ賢ト書加歟尓間口与奥注書雖不足備御用□自然写加之句為本意而已頼喩御記之事印融等存之又根来寺専沙汰之但印融ハ当本ハ実一方ニ不用之別帖〈今一巻外ニ有之〉用之云々以上／頼音房恵伝(花押) 四十三云々／／正伝之今此書ハ賀茂空観上人記也如実記之文如実ハ空観上人名也今イト云ハ彼空観上人□□□書写スル第二伝之本ヲ以交合スル処ニ彼本ニ違ルヲハ異説ニ付置之也彼交本奥書云空観上人大事授人数七人内覚済僧正御分　越所誓願分　大教上人　中将入道其弟子相意分　一蓮房／暦応三〈庚辰〉六月六日　(梵字３字) 上人ヨリ此書相伝也／定暁云々		
根来寺正忠入寺〈卅六〉／文禄二年二月七日春書写之／宥玄　尭円	十七／弘法大師十号解釈／亮海得本	印『妙智院』
天正十四年八月九日於高野山正智院御秘蔵御本申請令書写畢九州筑前雷山□住深舜房栄義住山之時書之生年六六	愛染金剛法　三十七尊	印『行海』／仮名
予自先年比自行時令延命院両界字輪観又加菩提心論月輪観意即身義六大躰性文通用両界行法字輪観為呈後第聊記之于時正応元年九月下旬也先師僧正口決之観心月輪弐前一時弐胸中観之二説中後説為勝矣又安字年中央字前観向行之弐胸中観向本尊四辺字陥在何可向中央字之色随四種法可用意色但以令色通用為善耳／金剛仏子頼瑜〈生年六十三〉／／永正七年五月廿四日以師主成純法印御本書写畢　聖盛／／天正十五年七月下旬智積院御本ヲ書写畢／朝恩宥源	入我々入　中性院作　復字輪観　同作	5－22の写
宣栄 (花押)	涅槃講式／麻	仮名／声点／節博士
宣栄 (花押)	麻	仮名／声点／節博士
宣栄 (花押)	麻	仮名／声点／節博士

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
5	7		(某聖教)	江戸	紙本墨書	折本装	16.4×12.6	10
5	8		弘法大師十号解釈	桃山	紙本墨書	粘葉装	17.0×15.9	8
5	9		愛染王法	桃山	紙本墨書	粘葉装	16.2×15.6	15
5	10		入我々入	江戸	紙本墨書	粘葉装	16.3×15.9	10
5	11		涅槃講式	江戸	紙本墨書	綴葉装	23.4×17.6	34
5	12		舎利講式	江戸	紙本墨書	綴葉装	23.3×17.2	19
5	13		遺跡講式	江戸	紙本墨書	綴葉装	23.4×17.4	28

奥書	外題	備考
宝永五戊子年正月二日於延命寺以開山和尚正本点校之／安祥寺嫡資蓮体〈四十六歳〉／／正徳二壬辰年孟秋念日以蓮体和尚之御本校写焉／海西比丘智光空書於河州寛弘寺／／右　以御本／享保七壬寅歳卯月晦日於紀州豊田興隆寺写点者也／法印一道〈五十三才〉	疏第三／入真言門住心品第一之余／入漫荼羅具縁真言品第二〈十三丁〉	
已上四度加行大概上代報恩院前大僧正御草也今度根来寺中正院聖融僧都彼御記所望申了其子細者近来田舎辺四度加行等作法粗違本寺之儀所有之歟仍為令散不審如此令申也此間猶彼寺辺行来作法一帖聖融僧都書進了取合有御一見之処誠当流之作法相違之分多端有之哉仍御記之分一巻有御清書之下遣了依仰隆瑜書之其次彼御本於申請令書写了／于時応永廿八年十二月中旬之初於上醍醐舜辺樹窓馳筆了　金剛仏子隆瑜〈四十三〉／／于時永正元年六月十七日上醍醐再任之時分於舜窓馳筆了　金剛仏子澄誉／／于時永正十一年正月十一日新福寺御本申出書写了　金剛仏子弘尋／／于時天文廿四年〈乙卯〉神無月廿五日高野山功徳聚院御本於申出書写了　大僧都快真〈四十二〉	四度加行條々／侵	
写本云／天文九季〈庚子〉正月日／新大導師／法印芙□〈六十五〉／／永禄九年〈丙寅〉正月日／新大導師／法印浄芸〈六十五〉／／『一校畢』		包紙「二月堂食堂作法／大導師芙性」
永正十年〈己酉〉七月六日書之同浄光明寺珎公和尚奉伝授了為以後書写了　闇甫	蘭盆献供儀／浄光明寺／慈恩院	包紙「盂蘭盆供儀」／仮名／節博士
于時享禄五〈壬辰〉年九月日書之／持主慶育		包紙「如法経表白」／包紙裏書「堅持提木叉研究一字宗托開諸僻院此祖門旧□」
		包紙（5-18-1と同一）
		包紙「二月作法／十一面悔過」／仮名／節博士／如導ほか観音寺関係者の忌日一覧あり

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
5	14		大毘盧遮那成仏経疏巻第三	江戸	紙本墨版	粘葉装	24.8×16.1	66
5	15		四度加行條々　聖霊記	室町	紙本墨書	袋綴装	24.1×16.0	18
5	16		食堂作法	室町	紙本墨書	巻子装	11.8×54.4(2)	11
5	17		蘭盆献供儀	室町	紙本墨書	折本装	20.8×9.4	16
5	18	1	(如法経表白)	室町	紙本墨書	折本装	14.9×13.5	8
5	18	2	(如法経表白)	室町	紙本墨書	折本装	14.7×13.4	11
5	19		(二月作法／十一面悔過)	江戸	紙本墨書	折本装	31.3×11.2	25

奥書	外題	備考
天正三年金柯大老六日新禅院御本申請即於新禅院西坊夜中書之可秘蔵者也／苾蒭光照〈年会衆〉	南都北京受戒事／苾蒭光照	
慶長六年八月十□於当郡橋本買取申候／九州肥前快前法印／／伝領定□／／伝領□済	教時義巻第二／僧宝□	声点
予自先年比自行時令延命院両界字輪観又加菩提心論月輪観意即身義六大躰性文通用両界行法字輪観為呈後第聊記之于時正応元年九月下旬也先師僧正口決之観心月輪弐前一時弐胸中観之二説中後説為勝矣又安字年中央字前観向行之弐胸中観向本尊四辺字随在何可向中央字之色随四種法可用意色但□□色通用為善耳／金剛仏子頼瑜〈生年六十三〉／／永正七年五月廿四日以師主成純法印御本書写畢　聖盛／／天正十五年七月下旬智積院之御本ヲ書写畢／朝恩宥源	入我々入〈中性院作〉　復字輪観〈同作〉／『二冊之内　加用観』	
延徳二年庚戌十月七日於紀州根来寺十輪院以中性院頼瑜法印御自筆□本書写畢　成純／／永正十七年五月十日　聖盛書之／／天正十五年七月下旬根来寺智積院尭性御房御本書写畢　朝恩宥神	字輪観加用観／『二冊之内　入我々入観』	
已上両僧正御為宇治殿被書出之本也即僧正云未灌頂人不可書之云云／金剛界根本会可図之云云／曳覆名无常衣也臨終正念決定往生極楽浄土見仏聞法頓証菩提ノ法衣也云云／慶長十〈乙巳〉四月廿四日書写畢	亡者曳覆書様／五十二	

函	号	枝	名称	成立	品質	装丁	法量	紙数
5	20		(南都北京受戒事)	室町	紙本墨書	大和綴	16.1×12.3	14
5	21		真言宗教時義問答巻第二	桃山	紙本墨書	粘葉装	17.8×15.0	117
5	22		入我々入観	桃山	紙本墨書	粘葉装	17.4×15.9	8
5	23		(字輪観加用観)	桃山	紙本墨書	綴葉装	17.0×15.8	2
5	24		亡者曳覆書様	江戸	紙本墨書	粘葉装	16.7×15.8	6

【文書編　解説】　竹ノ内雅人

ここでは近世期の文書に関する概要を述べる。

現在確認している近世文書の入った函は函1・4・8・9・11・17・18・21・24・31・32・33である。このうち、現段階まで内容の確認を取ったのが函1から18までとなっており、今回は、目録作製を終了した函1・4・8・11・18の分の目録を掲載した。

これらの文書の特徴を函番号ごとに概観すると以下のとおりである。

〔函1〕

全三七点ある文書の内容としては、一七世紀後期から一八世紀にかけての宗旨改の証文が多い。その他、宝永二（一七〇五）年寺領である西院村からの年貢減免に関する願書、元禄・享保期の田地・山林売買証文、丹波国桑田郡野々村中村（現・京都府北桑田郡美山町）観楽寺の住持交代に関するもの、同じく野々村と他村との境界争論、年代不明だが観音寺の境内に含まれている御土居の由緒書など、様々な種類の文書が雑多に混入しており、他の函から漏出したものをまとめた文書と見られる。

〔函4〕

最も古いものは宝永八（一七一一）年の「御朱印替之日記」（4－2－3）であるが、ほとんどが安永年間を中心とした一八世紀末から一九世紀初頭にかけての宗門人別帳で占められている。この人別帳は観音寺の門前町に関するもので、当時の門前町の人物構成を把握する上で中心となる史料となっている。このほかにも文化八（一八一一）年における門前町の由緒を記した「当寺門前所御尋控并由緒」（4－4）や、数点の金銀通帳が含まれていることから、基本的に門前町を中心にした寺の運営に関する文書をまとめたものとみられる。ただ、年代不明ながら「（唐招提寺相続一件）」（4－11）や「僧鎧瑞世私記」（4－15）など、僧侶の移動や相互関係に関わる文書や、御土居の西側を流れる紙屋川の普請についての史料など、別内容のものも若干含まれている。

〔函8〕

函8には内容別に分類された史料細胞群がいくつか存在している。まず8－1と8－2は寺の造作に関する諸代金の受領証をまとめた綴である。8－1は元禄六（一六九三）年に行われた作事についてのものと確認できる。一方8－2は包紙に「庫裏造作書付」とあり、年代は亥から子年のものと、辰から巳年のものに大別される。うち巳年のまとまりの中には文化六（一八〇九）年の年代を記載したものが含まれ、この年が巳年であることから、8－2は文化年間に行われた作事に関するものと推測される。8－3はその内容から、泉涌寺の長老でもあった僧鎧宜応が天明二（一七八二）年に入寺した際の史料と見られる。また8－4は丹波国船井郡大谷村（現・京都府船井郡日吉町）康安寺、8－11は先述の野々村中村観楽寺に関する文書であり、その内容からいずれも東向観音寺の末寺であったことが確認できる。このほか文政年間の門前町に関する宗門人別帳（8－8）や観音寺とその末寺などの作事願（8－9）、門前町屋敷の拝借証文（8－10）もある。

〔函11〕

函11は長持からダンボール函へ文書を移し変える際に、副住職ご自身によって別に取り分けられたものである。その史料はすべて「盛化門院尊儀御導師記　上林苑」と墨書された和紙の菓子袋に納められていた。内容は天明三（一七八三）年に執り行われた盛化門院（藤原維子。後桃園天皇室）の葬儀に関わる儀式次第が中心で、中には列席者などの配置を示した絵図面も含まれている。これは先述の僧鎧和尚がこの葬儀の導師として参加したことから作成された一連の史料であると見られる。

〔函18〕

ここでは享保二（一七一七）年の「日次記」（18－1）や、正徳六（一七一六）年～享保二年の「寺社触状」と「門前触状」（18－57～59）が最も古いものとして確認できるが、そのほかは文政年間以降の日並記や触留、寺領の庭帳などが含まれ、当時の観音寺の状況を確認するための基礎史料で占められている。このほか仏事に関する史料もいくつか含まれている。

以上、今回目録を掲載する史料群の概要を見てみた。それでは、これらを踏まえつつ、現在目録作成中の他の函の史料分も含めたうえで、近世の東向観音寺についての特徴を触れておきたい。

東向観音寺の寺領は「北野観音寺領御知行所」（函9－4－5－1）によると、慶長六（一六〇一）年一一月の段階で二二石二斗二合が計上されている。この寺領は西院村、西京村のほか、六石二斗四升五合を「西岡大藪分」なる土地から宛てられている。これがどの地域であるか明確には分からないが、その名称から境内西側にある御土居を指す可能性がある。このほか、承応元（一六五二）年、門前町の町式目および松梅院との関係を規定した「門前之掟」（函17－1－60）という史料では、天正一一（一五八三）年、当時の住職であった見海和尚が薮地を開いて屋敷地にしたという記述がある。このときの屋敷地には三人居住し始め、このうちの一人が町の年寄役を勤めたとあることから、少なくとも近世初頭の段階から門前町屋を形成していたことがわかる。この朱印地と門前町が観音寺の経営を支えていたとみてよかろう。

近世中後期の門前町に関する史料では、角屋喜兵衛という人物が頻繁に登場してくる。この人物は門前町において旅籠屋を営む人物であるが、「乍恐居宅仕切申度願」（8－9－7）から年寄役も勤めていたことが分かり、この門前町における中心人物のひとりと見られる。また、函4の安永九年九月における宗門人別帳（4－3－3・7・8・10）をみると、この門前町は角屋喜兵衛のほか丸屋千助なる人物持の借屋も数件存在し、町の構成員もしくは近辺の町人によって町屋敷の売得が行われていたこと、また「町中抱借屋」も存在していることから、町の屋敷所有者に変動が起こっていたことを確認できる。また、女性の世帯主が多く確認できることもこの人別帳の特徴といえよう。

そのほか、「帯刀家来覚」（8－8－3－1）から、奥仲久兵衛という寺侍が存在していたことが確認できるが、かれが観音寺においてどのような役割を果たしていたかは明らかではない。ほかの記録類を用いて照合する必要があると思われる。また、観音寺の末寺については函8の概要で解説したとおり、丹波国に二ヶ所存在していたことが分かるが、函8－9が「阿弥陀寺普請」と特に注記して一括されていた

史料では、山城国乙訓郡粟生村（現・長岡京市粟生）阿弥陀寺の普請に関するものが確認されており、観音寺と同じく泉涌寺末の寺院であることから、観音寺と何らかの関係を持つ寺とみられる。また、泉涌寺の長老を務めた僧鎧宜応に関係する史料も、函11をはじめとして数点確認されており、観音寺と本寺である泉涌寺との関係、泉涌寺派の僧侶組織を考察する上で重要な史料であると目される。

以上、今回目録を作成した分の史料を概観してみたが、現在調査中の函9や函17では、一七世紀における寺領、門前、御土居の管理に関する史料や、近世以降の西京保神人の実態を示す史料など、西ノ京や北野一帯の地域史や観音寺の経営を考える上で重要な史料を数多く確認している。今後も継続して史料調査を行い、その成果を全体に寄与する努力を行っていきたい。

※次頁からの史料目録は、竹ノ内雅人・矢野奈苗が作成した。

〈函１〉

函	No	原表題・［内容表題］	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
1	1				猪右衛門ほか８名	観音寺様御代官	状	1	前欠、上部欠、小破
1	2-1	法印権大僧都祐栄勧示		享保８年８月21日	法印権大僧都祐栄		状	1	上部欠、小破
1	2-2	法印権大僧都祐栄勧示		享保８年８月21日	法印権大僧都祐栄		状	1	上部欠、小破
1	3	乍恐口上之覚書	（観楽寺山古木盗伐一件）	元禄２年11月６日	中村庄屋吉太夫ほか４名	御奉行	状	1	上部欠、小破、訴状、全長76.6cm
1	4	宗門御改一札之事		宝暦９年８月	西院村庄屋喜兵衛	北野観音寺様御役人中	状	1	小破
1	5	奉願口上書		明和２年10月	丹州舟井郡木崎村万福寺恵厳	観音寺御役者中	状	1	上部欠、小破
1	6	売渡申山林之事		（享保）18年３月21日	売主中村きよ	観音寺	状	1	上部欠、小破、一部分離
1	7	永代売渡し申田地之事		元禄10年11月21日	中村うり主久右衛門ほか６名	観楽寺了戒坊	状	1	上部欠、小破
1	8-1		（万福律寺并本尊再興修復由来）	延宝３年８月１日	住寺比丘慧皎		状	1	
1	8-2		（万福律寺并本尊再興修復由来）	延宝３年８月１日	住寺比丘慧皎		状	1	
1	9-1	［　］尋指上申口上之覚	（観音寺門前町名相論に付）	酉年９月28日	北野観音寺	御奉行所	状	1	下部欠、中破
1	9-2	［　］尋指上申口上之覚	（観音寺門前町名相論に付）	酉年９月28日	北野観音寺	御奉行所	状	1	下部欠、中破
1	10	［　］申田地之事		［　］９日	売主さこほか４名	□（観）楽寺［　］	状	1	上部欠、中破、了戒へ売却
1	11	寄進状之事		（享保）17年６月26日	庄屋市兵衛ほか５名	観楽寺良智坊	状	1	中破
1	12-1	丹州桑田郡野々村庄内小倉山観楽□（寺）［　］興廃略年記					状	1	上部欠、中破
1	12-2	丹州桑田郡野々村庄内小倉山観楽□（寺）［　］興廃略年記					状	1	上部欠、中破

1	13	売渡し申田地之事		□２月19日	庄屋市兵衛ほか５名	同村観音寺	状	1	上部欠、中破
1	14	済状之事	（今宮村・市場村と中村との境相論）	元禄３年３月１日	今宮村良兵衛ほか５名	中村庄や吉太夫ほか４名	状	1	上部欠、小破
1	15	寄進状之事		享保17年６月26日	願主庄屋市兵衛ほか６名	観楽寺良智坊	状	1	上部欠、中破
1	16	［包紙］	「宗旨証文」					1	
1	17	敬請諷誦文事					状	1	雛形
1	18	宗旨改之覚		元禄３年８月12日	北野観音寺□（信）啓	本寺御役者中	状	1	下部欠、中破、端裏書「トメ［　　］元禄三年八月」
1	19	宗旨証状之事		文化３年３月	京北野観音寺役者正受軒	園部寺社御奉行所	状	1	写
1	20	覚	（宗旨改）	文和２年７月16日	観音寺信啓	泉涌寺御役者衆中	状	1	
1	21	乍恐口上書ヲ以御願申上候	（年貢減免）	宝永２年６月26日	西院村御下百姓喜兵衛	観音寺御納所	状	1	
1	22-1	申渡之口上覚	（観楽寺住持交代に付）	［　］２壬戌年３月	北野観音寺役者	観楽寺退住尊儀、同寺後住宜道、同村庄屋中、観楽寺惣檀中	状	1	上部欠、中破
1	22-2	申渡之口上覚	（観楽寺住持交代に付）	［　］２壬戌年３月	北野観音寺役者	観楽寺退住尊儀、同寺後住宜道、同村庄屋中、観楽寺惣檀中	状	1	上部欠、中破
1	23		（宗旨証文）	文化７年３月	京北野観音寺役者正受軒	丹州園部寺社御奉行所	状	1	中破
1	24	宗旨証文		安永７年９月	北野観音寺御役者中		状	1	
1	25	宗旨改之覚		８月12日	祥光房信啓	御役者	状	1	

1	26	覚	(御土居涯御領地由緒)				状	1	享保14年以降
1	27		(寺領書上)				状	1	後欠、端裏書「トメ」
1	28	人数改覚	(写)	安永9年5月	観音寺	泉涌寺御役者中	状	1	端裏書「トメ安永九年庚子年五月人数改書控但し美濃紙二枚相認申候也」
1	29	覚	(御土居涯御領地由緒)				状	1	
1	30	宗旨証文之事		宝暦2年7月	南禅寺塔頭岩栖院	北野観音寺御庵主	状	1	
1	31	覚	(御土居涯御領地由緒)				状	1	
1	32	宗旨改之覚		貞享3年8月12日	北野観音寺信啓	本寺御役者中	状	1	折紙、「貞享丙寅年八月十二月御安へ遣之」、写

〈函4〉

4	1	御金請取通		寛政3年3月	伊賀屋重蔵・伊藤屋久兵衛	観音寺役者衆中	横半	1	
4	2-1	御朱印御改日記并東向入用日記		延享2年	北野観音寺		竪	1	2-1～3までビニール紐にて一括
4	2-2	御朱印替之日記		享保2年2月			竪	1	
4	2-3	御朱印替之日記		宝永8年5月			竪	1	
4	3-1	浄土宗門人別改帳		安永9年9月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-2-1	律宗浄土宗門徒宗禅宗宗門人別改帳四冊		享和3年9月	北野東向観音寺		袋	1	
4	3-2-2	律宗門人別改帳		享和3年9月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者僧順	御奉行所	竪	1	3-2-2～5まで合冊
4	3-2-3	浄土宗門人別改帳		享和3年9月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者僧順	御奉行所	竪	1	

4	3-2-4	門徒宗人別改帳		享和３年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者僧順	御奉行所	竪	1	
4	3-2-5	禅宗門人別改帳		享和３年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者僧順	御奉行所	竪	1	
4	3-3	日蓮宗門人別改帳		安永９年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-4	此度訴書留	（南蔵中の銭5貫400文紛失に付）	文化２年５月22日	観音寺役者正受軒		竪	1	
4	3-5	北斗供年数留記		文政９年12月28日	上林苑		横半	1	公家の年齢あり
4	3-6	模様替普請御願	（台所其外建物焼失につき）	文政10年12月24日	北野東向観音寺	御奉行所	竪	1	絵図面あり
4	3-7	門徒宗門人別改帳		安永９年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-8	禅宗門人別改帳		安永９年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-9	江戸参勤例書					竪	1	寛永９年～貞享３年の参府記録を記載
4	3-10	律宗門人別改帳		安永９年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-11-1	律宗門人別改帳		安永８年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	3-11-1～5合冊
4	3-11-2	浄土宗門人別改帳		安永８年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-11-3	門徒宗門人別改帳		安永８年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-11-4	日蓮宗門人別改帳		安永８年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-11-5	禅宗門人別改帳		安永８年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	

4	3-12-1	律宗門人別改帳		安永７年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	4-3-12-1～10までビニール紐で一括
4	3-12-2	日蓮宗門人別改帳		安永７年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-3	浄土宗門人別改帳		安永７年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-4	禅宗門人別改帳		安永７年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-5	門徒宗人別改帳		安永６年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-6	宗門人別改帳		安永５年５月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-7	日蓮宗門人別改帳		安永６年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-8	禅宗門人別改帳		安永６年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	3-12-9	宗門人別御改帳		寛政９年８月	年寄専助　五人組伊三郎	観音寺様御知事	竪	1	
4	3-12-10	浄土宗門人別改帳		安永６年９月	泉涌寺末寺北野東向観音寺役者恵玉	御奉行所	竪	1	
4	4	当寺門前所御尋控并由緒		文化８年11月21日	東向観音寺役者正受軒	御奉行所	竪	1	
4	5	寺格御答書		亥正月29日	観音寺役者学音	御奉行所	竪	1	
4	6	金銀預り之通　金銀銭渡之通					横半	1	
4	7	銭預り之通					横半	1	
4	8	金銀銭請取之通		寛政７年11月	大工平右衛門	北野観音寺	竪	1	

4	9	沽券御改帳		明和４年11月			竪	1	
4	10		（日記）				竪	1	「三月三日内田重蔵入来…」
4	11		（唐招提寺相続一件）	寛政７年７月			竪	1	
4	12		（観音寺田地場所地形覚）		東向観音寺		竪	1	西院村・西ノ京村
4	13	丹州氷上郡小和田村浄土寺一件		文化７年７月11日			竪	1	
4	14	日録		天明３年11月１日	成龍		竪	1	
4	15	僧鎧瑞世私記			成龍		竪	1	
4	16	知行高之覚帳		元禄11年４月27日	山城葛野郡北野東向観音寺信啓	石川主殿頭	竪	1	
4	17	鉄砲御改帳		貞享５年５月18日	泉涌寺末寺観音寺信啓	鉄砲御改御奉行所	竪	1	「右二冊相調ハ前田安芸守殿江差上申候」
4	18	紙屋川御普請仕方帳		文政10年11月	西京村庄屋藤右衛門・年寄長右衛門	観音寺様御役人中	竪	1	
4	19	知行所改覚帳		元禄11年４月	山城国葛野郡北野東向観音寺信啓	石川主殿頭	竪	1	
4	20	知行所改覚帳		元禄11年４月27日	山城国葛野郡北野東向観音寺信啓	石川主殿頭	竪	1	表紙「三冊之内」の注記

〈函８〉

8	1-1	御入札帳		元禄６年11月晦日	寺町通十念寺前大工喜兵衛	観音寺	竪	1	
8	1-2-1	北野観音寺拝堂瓦入札		元禄６年12月18日	大仏瓦師三右衛門		竪	1	
8	1-2-2	手伝方御注文覚			手伝方伊兵衛		状	1	2-1に挟んである
8	1-3	本堂仕様注文之覚		元禄６年12月２日	おひや五郎兵衛	小堀屋五兵衛殿取次	状	1	
8	1-4	御作事入札目録		元禄６年12月１日	大工重右衛門	観音寺	状	1	

8	1-5	瓦注文覚					状	1	後欠
8	1-6	注文覚	「一、三間四方ノ本堂…」	酉年11月28日	下長者町通知恵光院通東へ入ル御用頭いつゝや長右衛門	大工平兵衛様	状	1	
8	1-7-1	白川石之注文		酉年極月４日	白川村石や四郎兵衛	観音寺	状	1	
8	1-7-2	注文之覚	「一、壱尺五寸四方…」(代銀550匁)	12月14日	大津下堅田町石屋四郎兵衛		状	1	
8	1-7-3	石之注文	「一、壱尺五寸六めん…」	12月14日	大津松本かたはら町石工彦兵衛	観音寺	状	1	
8	1-7-4	石すへえ覚		酉年12月14日	大津松本石や勘三郎		状	1	
8	1-8	小屋懸注文		酉年12月５日	井筒屋喜兵衛	観音寺	状	1	
8	1-9	瓦之覚　但シ深草にて		11月吉日			状	1	後欠
8	1-10	石之覚	「一、壱尺五寸六めん十六…」(553匁２分)	酉年12月15日	石屋市兵衛		状	1	
8	1-11	御注文之覚	「一、三間四方之本堂…」	元禄６年11月27日	下長者町平兵衛	□□（北野）ひかしむきくわんおん寺	状	1	
8	1-12	大工之歩	(大工長兵衛他賃銀書上)				状	1	
8	1-13	覚	(大工賃銀書上)				状	1	
8	1-14	五十嵐重兵衛書抜及信啓返状	(前田安芸守屋敷へ役者衆出頭に付)	２月18日	五十嵐重兵衛	上賀茂北埜観音寺	状	1	裏書「右表書之趣致承知候　二月十八日　観音寺　信啓判」
8	1-15	覚	(れんぎょうの釘隠に付)	５月24日	柏屋太兵衛	観音寺様御用	状	1	
8	1-16	北埜くわんおん様当堂諸事作事之事	(堂破損に付代銀のこと)	元禄６年10月２日	大工利左衛門	北野東向くわんおん寺	状	1	
8	1-17		「一、拝堂桁行五間…」(瓦注文覚)	12月23日	瓦師七左衛門	北埜東向観音寺様	状	1	

8	2-0-1	（こより）					こより	1	反故紙使用「半右衛門小屋之手埋仕候天神講銀子…」
8	2-0-2	庫裏造作書付					包紙	1	紙背に「客殿覚」、戌二月朔日大工半右衛門より東向観音寺宛
8	2-1-0	（諸入用書上綴）					綴	1	
8	2-1-1	覚	（諸板代書上）	亥年６月	木や久右衛門	佐野屋善七	状	1	
8	2-1-2	覚	（箕代書上）	３月25日	丹波屋理右衛門	観音寺	状	1	
8	2-1-3	覚	（箕代書上）	３月25日	丹波屋理右衛門	さのや治兵衛	状	1	
8	2-1-4	覚	（杉板など代金）	子年４月	木や久右衛門	佐野屋善七	状	1	
8	2-1-5	口演	（醤油代３貫500文納めにつき）	６月18日	観音寺納所	佐野屋善七	状	1	端裏書「佐野や善七様くわんおんし恵玉」
8	2-1-6	覚	（銭１貫文借りにつき）	５月７日	観音寺納所	佐野屋善七	状	1	
8	2-1-7	覚	「一、七人　木引字兵衛手間…」（諸工手間賃・材木代など書上）				状	1	
8	2-1-8	覚	（杉柱代など書上）	子年５月節句まえ	木や久右衛門	観音寺様用佐野屋善七	状	1	
8	2-2	覚	（釘代・銀83匁７厘）	子年３月７日	納所	佐野屋治兵衛	状	1	
8	2-3		（御油紙包代金請取）	卯年１月27日	大黒屋庄次郎	泉涌寺様御役所	状	1	
8	2-4	覚	（屋根板代その他手間賃覚）	子年５月			状	1	
8	2-5		「ニメ百五十文…」（銭数書上）				状	1	
8	2-6	覚	「五月六日　一、二人…」（大工数手間賃書上）	子年７月	大工利兵衛	観音寺御世話方御講中	状	1	
8	2-7	覚	（代金書上）	子年８月９日			状	1	
8	2-8	覚	（杉代など書上）	子年５月節句まえ	山かた屋新兵衛	観音寺	横	1	

8	2-9	材木積書		亥年２月	山形屋新兵衛	観音寺	横	1	
8	2-10-0		（諸代金書上綴）				綴	1	
8	2-10-1		（のり代等書上）	７月13日	大木や喜右衛門	一条与兵衛	状	1	
8	2-10-2	釘鉄物之通		子年５月吉日	十文し屋平右衛門	観音寺	状	1	
8	2-10-3	書出し	（松板代など書上）	子年７月	山形屋新兵衛	観音寺	状	1	
8	2-10-4	書出し	（代金書上）	ね年７月	すさ屋平吉	くわをん様	状	1	
8	2-10-5	いしばい覚	「五月廿日　一、八百文　五斗…」	子年７月	ひしや伝右衛門	観音寺御役人中	状	1	
8	2-10-6	覚	「一、あら石四本代　三拾弐文…」（石代書上）	子年７月	石屋佐右衛門	観音寺	状	1	
8	2-10-7	覚	（石灰など代金覚）	７月	左官与兵衛	観音寺	状	1	
8	2-10-8		（人数覚）		石屋すて	くわんをん寺	横	1	
8	2-10-9	覚	（諸材代金書上）				状	1	別紙あり
8	2-11		（集金控）				横	1	
8	2-12-1-1-1	覚	（代金書上）	９月前	松屋武介	北野観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-2	覚	（代金書上）	９月まへ	松坂屋ろく	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-1-3	書出	（代金書上）	辰年９月節句前	一もんじ屋金右衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-4	覚	（上炭代金）	辰年	くらま財悦	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-1-5	覚	（米代金書上）	９月まへ	米屋作蔵	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-1-6	覚	（代銭書上）	９月まへ	丸屋清兵衛	観音寺寺僧	状	1	
8	2-12-1-1-7		（代金書上）	辰年９月前	洛西和泉谷瓦師渡辺喜兵衛	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-1-8	書出し	（代金書上）	９月まへ	大和屋七郎右衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-9	覚	（代金書上）	９月節句まへ	よきや長兵衛	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-1-10	覚	（傘代金書上）	辰年９月前	ひし屋庄助	観音寺様御納所	状	1	

8	2-12-1-1-11	覚	（つぼ等代金書上）	9月まへ	樽屋徳兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-12		（代金書上）	辰年9月	瓦師助左衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-13	覚	（代金書上）	9月まへ	めし喜助	くわんおん寺	状	1	
8	2-12-1-1-14	覚	（代金書上）	辰年9月前	いせ屋よし蔵	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-15	覚	（赤飯など代金）	9月まへ	丹波屋善五郎	くわんおん寺	状	1	
8	2-12-1-1-16	覚	（代金書上）	9月まへ	いかり屋源蔵	東向観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-17	覚	（畳など代金）	辰9月	畳屋太郎右衛門	観音寺様御用御納所	状	1	
8	2-12-1-1-18	書出し	（香代金書上）	9月まへ	近江屋太助	観音寺	状	1	
8	2-12-1-1-19	覚	（手間賃書上）	辰年9月前	井筒屋半右衛門	東向観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-0		（覚綴）				綴	1	
8	2-12-1-2-1	覚	（代金覚）		いせや義蔵	くわんおん寺	状	1	
8	2-12-1-2-2	覚	（代金書上）	み年9月	円屋清兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-3	覚	（代金書上）	ミ年9月まへ	与三兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-4	覚	一、三百廿四文…（代金書上）		かさや庄助	上林苑御納所	状	1	
8	2-12-1-2-5	書出し	一、六十六文　つるへ縄…	9月まへ	大黒屋清兵衛	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-2-6	書出し	（材木代金）	9月まへ	つぼや藤右衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-7	覚	（代金書上）	9月節句前	松屋武介	北野観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-8	覚	一、四十五匁三分…	巳年9月前	越後屋弁右衛門	観音寺様御台所	状	1	
8	2-12-1-2-9	（代金書上）		9月まへ	藤屋伊蔵	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-2-10	書出し	（代金書上）	9月前	高井	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-11	覚	（代金書上）	9月まへ	いかりや源兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-12	覚	（代金書上）	9月7日	よきや長兵衛	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-1-2-13	覚	（代金書上）	9月	松坂屋ろく	観音寺様御納所	状	1	

8	2-12-1-2-14	覚	(ふろかめ他代金書上)	9月前	樽屋徳兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-15	書出し	(香代書上)	9月前	近江屋太助	観音寺	状	1	
8	2-12-1-2-16	覚	(代金書上)	巳年9月前	夜利	観音寺様御役人	状	1	
8	2-12-1-2-17	覚	(わた代代金)	巳年9月まへ	綿屋平八	観音寺	状	1	
8	2-12-2	(来訪者書上)	「十八日　一、清七来…」				綴断簡	1	
8	2-12-3	(諸代金書上綴)					綴	1	
8	2-12-3-1-0	(綴ひも)					ひも	1	8-2-12-3-5まで括る
8	2-12-3-1-1	書出し	「十一月十五日…」(材木代書上)	12月11日	つほ屋藤右衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-2	書出し	「極月十六日　一、五匁四分…」(丸太代等書上)	巳年極月前	山かた屋新兵衛	東向観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-3	覚	「一、三拾七匁九分…」	12月	松屋武介	北野観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-4	書出し	(代金書上)	巳年12月前	高井	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-5	覚	(代金書上)	12月27日	米屋作右衛門	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-3-1-6	覚	(油代書上)	12月27日	丹武	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-7	覚	(丸太代書上)	巳年12月	まつ屋新蔵	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-8	(代金書上)			山田彦兵衛	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-3-1-9	書成り	「一、弐匁七分…」(代金書上)	巳年12月	亀屋文右衛門	北野観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-3-1-10	覚	(油さし代など書上)	巳年12月20日	斧屋七太夫	東向観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-3-1-11	覚	(代金書上)	極月	松酒屋ろく	観音寺様御納所	状	1	
8	2-12-3-1-12	書出し	(代金書上)	巳年12月前	一もんじ屋金右衛門	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-13	覚	(小豆など代金書上)		津国屋作兵衛	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-14	覚	「十二月廿八日…」(代金書上)	酉12月まへ	丸せ	観音寺	状	1	
8	2-12-3-1-15	覚	(わた代等書上)	巳年12月前	わた屋平八	東向観音寺御納所	状	1	

8	2-12-3-2	諸紙通		巳年７月	御前通下立売上ル三丁目鍵屋庄兵衛	観音寺	横半	1	
8	2-12-3-3	豆腐通		今春	大和屋半兵へ	観音寺御納所	横半	1	
8	2-12-3-4	豆腐通		巳年秋	大和屋半兵衛	観音寺御納所	横半	1	
8	2-12-3-5	御酒之通		文化６年７月	御酒所［　　］山城	東向観音寺御納所	横半	1	
8	2-12-4-0	（くくりひも）					ひも	1	
8	2-12-4-1	干物類油之通		文化６年秋	津国屋佐兵衛	東向観音寺	横半	1	
8	2-12-4-2-0	（代金書上綴）					綴	1	
8	2-12-4-2-1	覚	（代金書上）	巳年11月	一もんじ屋金右衛門	観寺	状	1	
8	2-12-4-2-2	覚	（米代書上）	11月13日	まつ屋武介	北野観音寺	状	1	
8	2-12-4-2-3	覚	（銭箱など代金書上）	11月火焼前	今小路　斧長	東むき観音寺	状	1	
8	2-12-4-2-4	覚	（白絹など書上）	巳年１月	わた屋平八	観音寺御納所	状	1	
8	2-12-5	（諸代金書上・通帳綴）					綴	1	
8	2-12-5-1	油之通		巳年７月	御前通下立売上ル町丹波屋武兵衛	観音寺	横半	1	
8	2-12-5-2	覚	「一、六匁四分…」（代金書上）	11月13日	つほ屋清兵衛	くわおん寺	状	1	
8	2-12-5-3	覚	「十月廿二日…」（大工手間賃書上）	巳年11月13日	大工半右衛門	東向観音寺	状	1	
8	2-12-5-4	覚	「十月十七日　弐人…」（代金書上）	巳年11月24日	うへ木屋与八郎	観音寺	状	1	
8	2-12-5-4	覚	「九月中　一、弐百文…」（代金書上）	９月	なつ屋源重	東向	状	1	
8	2-12-5-6	覚	「九月六日　一、五十文…」（代金書上）	11月14日	円屋清兵衛	観音寺	状	1	

8	2-12-5-7	書出し	「十月廿七日　一、四匁…」（丸太など代金書上）	火焼前	とし屋新吉	東向観音寺	状	1	
8	2-12-5-8	覚	「九月十三日　一、拾七匁…」（種油代書上）	巳年　火焼前	越後屋弁右衛門	観音寺様御台所	状	1	
8	2-12-5-9	覚	「九月十四日　一、六百文…」（白張など代金書上）	巳年11月14日	ひし屋源七	上林院	状	1	
8	3-1	［書状］	（房丸沙喝作法につき）	9月3日	観音寺僧鎧	高岳大和尚ほか50名	横	1	
8	3-2	［書状］	（煮染被成下につき御礼）	11月6日	役者中	僧鎧大和尚	状	1	端裏書「僧鎧大和尚役者中」
8	3-3	正徳二壬辰年正月十八日前住衆内談之由	（正月22日～2月晦日の日記）				状	1	
8	3-4	［書状］	（下橋左兵衛尉御布施につき）		下橋左兵衛尉	僧鎧長老	状	1	
8	3-5	覚	（駕籠・侍人数書上）				状	1	
8	3-6		「百七拾三匁七分…」（代銀書上）				状	1	
8	3-7		「今時之釈氏…」（昨今寺院に関する趣意書）				状	1	
8	3-8	覚	（納品目録）	卯年2月11日	方屋役人	新善光寺御納所中	状	1	
8	3-9	［書状］	（福海の食事進献につき）	3月22日	成龍	高岳大和尚ほか22名	横	1	
8	3-10		「天明二寅年正月廿八日…」（1月28日～2月20日の日記）	天明2年1月28日～2月20日			状	1	
8	3-11		「一、座香　独一西堂…」（役割書上げ）				状	1	
8	3-12		「習礼　廿六日辰刻…」（予定役割書上げ）				状	1	

8	3-13-1		「習礼　廿六日辰刻…」（予定役割書上げ）				状	1	
8	3-13-2	［書状］	（僧鎧新命入寺につき）		維那雄龍・蔵司竺礼	満山各位閣下	状	1	
8	3-14	諸道具人数役割帳					横	1	
8	3-15	［書状］	「一簡致啓上候…」（泰山西山入寺につき）	11月２日	準敞		状	1	紙背あり
8	3-16	［書状］	（御礼・釈銀要望につき）	８月７日	築山与九郎政住	僧鎧長老	状	1	
8	3-17	廻状		10月25日			状	1	
8	3-18	［書状］	（聖純沙喝得度作法につき招待）	５月24日	観音寺僧鎧		横	1	
8	3-19	口陳	（粥斎招待につき）	10月25日	福海	満山各位閣下	状	1	包紙「福海」
8	3-20	［書状］	（僧鎧新命入寺につき）	10月25日	泉涌寺維那雄龍・蔵司竺礼	泰道西堂・桂峰西堂・秀海律師・隆海律師	状	1	
8	3-21	［書状］	（蔬斎招待につき）	10月25日	福海	満山各位閣下	状	1	包紙「福海」
8	3-22-1	謝礼諸払出金銀銭之覚		天明２年10月	上林苑知事		竪	1	
8	3-22-2	口上	（御祝儀への返礼）		宅間道理		状	1	
8	3-23	音物贈宝帳		天明２年10月			竪	1	
8	3-24	諸道具人数役割帳		天明２年９月	成龍		竪	1	
8	4-0	［包紙］	「康安寺え」		丹州舟井郡木崎村万福寺恵厳	観音寺御役者中	包紙	1	くくりひも有り
8	4-1	［書簡］	（岡安寺無住ニ付出家派遣願）	12月13日	大谷村伝之丞ほか７名	観音寺	状	1	
8	4-2	［書簡］	（四ヶ村より恵仲殿へ寺出願）	７月21日	大谷村四ヶ村庄屋伝之丞ほか３名	観音寺	状	1	折紙
8	4-3	宗旨証文之事	（大谷村康安寺当住智教）	寛延４年６月	丹州舟井郡越方村神宮寺暁山・恵向	京北野観音寺様御役者中	状	1	
8	4-4	宗旨請状	（大谷村康安寺宗旨に付）	元禄15年８月	北野観音寺役者真休	園戸御奉行所	状	1	端裏有り

8	4-5	一札	（貴院末寺康安寺住職の件、亮詮房当院前住亮快直弟に付）	寛政12年７月	清心院役者	京都北野観音寺御役者中	状	1	
8	4-6	乍恐奉願上口上書	（康安寺無住に付新住職願）	寛政12年２月	吉野部村庄屋伝右衛門・年寄九右衛門ほか９名	京都北野観音寺御役寮	状	1	
8	4-7				大谷四ヶ村役人中	京北野観音寺様御役寮	包紙	1	
8	4-8	乍恐奉願上口上書	（病身に付隠居願）	明和２年２月	大谷村康安寺良仲ほか５名	観音寺様御役者中	状	1	
8	4-9	奉願口上之覚	（地蔵開帳、閉帳十日延長に付）	宝暦５年４月11日	願主康安寺・四ヶ村惣代弥次右衛門	観音寺	状	1	
8	4-10	［書簡］	（康安寺住職に付）	５月24日	海老谷村庄や二郎左衛門ほか３名・四ヶ村年寄中	観音寺様知事中	状	1	
8	4-11		（地蔵施餓鬼の件、師弟口論に付始末）	７月23日	恵仲	観音寺	状	1	
8	4-12	奉願上口上書	（跡式を法類上林寺町観音院弟子快厳房へ相続願に付）	明和８年２月	丹州船井郡北大谷村康安寺玉風ほか８名	京北野観音寺御役者中	状	1	
8	4-13	諸末寺記録		安永４年12月	北野東向観音寺		冊	1	
8	4-14	奉願口上之覚	（康安寺修復のため観音寺において地蔵開帳願）	宝暦５年２月	東向観音寺	御奉行所	状	1	
8	4-15	乍恐口上	（康安寺宗旨証文の領主名書替に付）	亥年３月27日	丹州大谷四ヶ村役人	京北野観音寺御役寮	状	1	
8	4-16	［書簡］	（康安寺の本寺観音寺である旨証文）	寛文４年４月17日	丹州大谷村庄屋森久右衛門ほか４名	北野観音寺	状	1	
8	4 -17	証状之事	（観楽寺無住により、恵発宗旨請合に付）	宝暦12年９月	丹州上林十倉村社誓寺住持寛山	北野東向観音寺	状	1	
8	4 -18	口上	（康安寺無住の世話により礼）	４月26日	渡辺武兵衛		状	1	

8	4-19	乍恐御窮奉申上候	(地蔵開帳期間十日日延願)	宝暦5年4月9日	煮売や惣代中村屋長右衛門・水茶屋惣代丸屋半右衛門・売人惣代美濃屋清兵衛	観音寺御役者中	状	1	
8	4-20	追而奉願口上	(康安寺後住智教房に仰付け願に付)		大谷村庄屋文右衛門ほか8名	北野東向観音寺御役者	状	1	
8	4-21	覚	(康安寺什物改)	寛延4年5月1日	役人惣代加地文右衛門・丹那惣代佐木弥次右衛門	御検僧定光院	状	1	包紙入り
8	4-22		「其元御無為御勤…」(応仲義ふき出し此度さんざんに付)	7月22日	大谷りうん寺より清悦	照遍大律師ほか1名	状	1	
8	4-23	請状之事	(丹州大谷村宮寺末寺に付)		本寺京観音寺	園辺奉行所	状	1	
8	4-24	乍恐奉願上候口上之覚	(病身により退院再応願に付)	宝暦9年8月	大谷康安寺智教	東向観音寺御役者中	状	1	
8	4-25	村方江申遣ス口述覚	(康安寺後住推薦すべきに付)	天明5年8月3日		大谷村惣中・野々村観楽寺	状	1	
8	4-26	御本寺より御口述被下候御請書覚	(康安寺快厳退院により後住に付)	巳8月7日	観楽寺点瑞	御本寺御役者	状	1	
8	4-27	乍恐奉願上候事	(退院願)	天明5年5月	大谷村康安寺快厳	京観音寺御役者	状	1	
8	5	天神袈裟之記		嘉暦2年2月25日	前浄訃笑厳知折		竪	1	
8	6		「慎敬巨一代教主釈迦牟尼…」(盛化門院十七回忌)				横	1	
8	7	聖花門院御三回忌					状	1	
8	8-0	律・禅・浄土・日蓮・門徒宗門人別帳壱冊入		文政10年9月	北野東向観音寺		袋	1	
8	8-1	[書簡]	「季春念日之貴帖厚拝見…」(登山延引失礼に付)	3月24日	僧鎧	大融和尚	状	1	

8	8-2	律宗門人別改帳		文化８年９月	泉涌寺末北野東向観音寺役者亮詮	御奉行所	竪	1	
8	8-3-0	［包紙］					包紙	1	「例年宗旨御役所差出候処、五通ノ内当年焼失ニ付、是ヲ以為初例」
8	8-3-1	帯刀家来覚	（奥仲久兵衛に付）	亥年９月	泉涌寺末北野東向観音寺役者亮詮	御奉行所	状	1	包紙入り「言かへ　上」
8	8-3-2	宗門御改一札之事	（百姓長治郎ほか２名）	文政10年８月	西院村庄屋喜兵衛	北野観音寺様御役人中	状	1	包紙入り「上」
8	8-3-3	宗門人別御改之事	（宗門別人数に付）	文政10年８月	年寄清七・五人組喜兵衛	観音寺様御知事	状	1	包紙入り「上」
8	8-3-4	宗門人別御改帳		文政10年８月	年寄清七・五人組喜兵衛	観音寺様御知事	竪	1	
8	8-4	律宗門人別改帳		文政10年９月	泉涌寺末北野東向観音寺役者亮詮	御奉行所	竪	1	禅・浄土・日蓮・門徒宗門人別も同綴。
8	9-0	当寺門前末寺普請願書二袋之内					袋	1	菓子袋
8	9-1-0	［包紙］	「阿弥陀寺普請」				包紙	1	内側「上　西京村」
8	9-1-1	乍恐造作御願		享保19年11月	角屋喜兵衛ほか４名	御奉行	状	1	端裏書「享保十九年角屋喜兵衛普請之控」
8	9-1-2	乍恐口上書を以奉願候	（路地新規明け願）	享保６年２月３日	角屋喜兵衛ほか３名	観音寺	状	1	
8	9-2-0	［包紙］	「慈光庵普請」				包紙	1	内側「上　西京村」
8	9-2-1	乍恐奉願造作御訴訟之事	（庇大破に及びに付）	享保３年２月	泉涌寺役者・慈光庵	御奉行	状	1	8-9-2-2に同じ
8	9-2-2	乍恐奉願造作御訴訟之事	（庇大破に及びに付）	享保３年２月	泉涌寺役者・慈光庵	御奉行	状	1	絵図を巻き込み
8	9-3	奉差上口上書	（庇縁造作差出絵図相違に付）	享保14年12月11日	阿弥陀寺ほか２名	御奉行	状	1	端裏書「上」

8	9-4-0	御本山観音寺江上ヶ絵図		酉３月			状	1	
8	9-4-1	乍恐奉願古寺建直シ御訴訟之事		享保２年３月	阿弥陀寺住持幸然ほか２名	観音寺	状	1	付箋「くわんおんし」
8	9-5	奉差上口上書	（庇縁造作差出絵図相違に付）	享保14年12月11日	城州乙訓郡粟生村阿弥陀寺照願ほか２名	御奉行所	状	1	
8	9-6	乍恐造作御願	（当町中抱屋敷地へ借屋建申度に付）	宝暦３年12月18日	年寄願主七兵衛ほか４名・町中	御奉行	状	1	端裏有り、絵図１枚巻き込み
8	9-7	乍恐居宅仕切申度御願		寛延４年４月24日	年寄角屋喜兵衛ほか２名	御奉行	状	1	端裏有り
8	9-8	乍恐造作御願	（小座敷建申度に付）	寛保２年２月９日	旅籠商売人角屋喜兵衛ほか３名	御奉行	状	1	二階部分の絵図巻き込み
8	9-9	普請御願	（所持屋敷地小屋建物取建申度に付）	文化２年８月２日	下五人組角屋喜兵衛ほか１名	観音寺様御知事	状	1	端裏有り
8	9-10	乍恐造作御願	（居宅建直申度に付）	宝暦３年12月18日	松屋与市ほか５名	御奉行	状	1	端裏有り
8	9-11	乍恐造作御願	（屋敷地之内建物建直に付）	宝暦８年３月	角屋喜兵衛ほか３名	観音寺様御知事	状	1	端裏有り
8	10	［包紙］	「門前屋敷預証文」（門前屋敷拝借証文）	貞享３～天明５年	（預かり主）	観音寺	状 一括		36点一括、括り紐有り
8	11-0	［包紙］	「観楽寺書類」				包紙	1	裏書、括り紐あり
8	11-1		「右当寺是延暦上古…」（再建に付願文）	応永２年			状	1	前欠
8	11-2		「一、此度我等退院之儀ニ付…」	元禄15年	慧仲	宇津金剛寿寺	状	1	
8	11-3	法請一札之事	（祐鏡なる僧確かな僧に付）	享和４年２月	丹波桑田郡并河村東光寺寂峯	京都東向観音寺役者中	状	1	
8	11-4	宗旨証状之事	（観楽寺末寺に付）	文化３年３月	京北野観音寺役者正受院	園部寺社御奉行所	状	1	

8	11-5	奉願上口上之覚	(観楽寺無住に付量鋭後住願)	安永７年３月10日	観楽寺担中惣代弥兵衛ほか２名	観音寺御役者中	状	1	
8	11-6		「于時宝永二乙酉年夏六月…」(寺社方・代官より申渡さるる趣)		観楽寺庄や甚之丞ほか２名	北野観音寺	状	1	
8	11-7	請状之事	(量鋭なる僧弟子に紛れ無きに付)	宝永７年３月	丹州野々村宝泉寺	京北野観音寺	状	1	
8	11-8	一札之事	(観楽寺、観音寺の末寺に付)				状	1	
8	11-9	宗旨請状	(観楽寺、観音寺の末寺に付)	正徳３年３月	京北野観音寺役者祖昇	園部御奉行所	状	1	
8	11-10		「観楽寺之儀ニ付…」(観楽寺兼帯難渋に付後住願)	２月３日	宝泉寺	観音寺御役者中	状	1	8-11-11巻き込み、折紙
8	11-11	[書簡]	「一翰啓上仕候、先以…」(観楽寺兼帯難渋に付後住願)	１月25日	丹州野々村宝泉寺顕明	京北野観音寺御役者中	状	1	折紙
8	11-12	為取替証文之事	(朝日山四方限に付)	明和２年10月	橋本村庄屋幸助ほか５名	弓槻村庄屋五右衛門	状	1	
8	11-13	宗門請状之事	(普宝寺なる僧確かな僧に付)	宝暦８年９月	丹波神吉上村定光院	京北野東向観音寺御役者	状	1	
8	11-14	[書簡]	「一筆申達候観楽寺住持之事…」(良田なる僧入寺に付)	霜月４日	観音寺	中村庄屋御年寄中	状	1	折紙
8	11-15	本寺請状	(観楽寺末寺に付)				状	1	
8	11-16	就宗旨御改請状	(観楽寺末寺に付)	寛文11年３月29日	京北野観音寺智納	御奉行所折田進介ほか１名	状	1	端裏「留六」
8	11-17	宗旨請状	(観楽寺末寺に付)	享保４年３月			状	1	
8	11-18	奉願口上	(銀端房観楽寺へ入寺させたきに付)		丹州桑田郡中村平兵衛ほか２名	京北野観音寺御役者中	状	1	
8	11-19	乍恐奉願口上覚	(恵教なる僧観楽寺へ入寺させたきに付)		ノヽ村中村庄屋市之丞ほか４名	北野東向観音寺御役者	状	1	包紙入り「上　野々村之庄中村檀中」

8	12-1		「同国桑田郡…」（末寺建立改宗年代に付）	元禄５年６月４日	北野観音寺信啓	泉涌寺	状	1	8－1－27の続き
8	12-2	覚	（辞光院再興年代に付）	壬申年６月４日	辞光院信啓	御役者	状	1	8-12-1に巻き込み

〈函11〉

11	0	［袋］	「盛化門院尊儀御導師記」		上林苑		袋	1	断簡含む
11	1	盛化門院尊儀御一会御中陰御法事記			蔵主　成龍		横半	1	
11	2		「御花瓶　壱箱…」（盛化門院御葬送の節長老へ下されに付）	２月８日			状	1	折紙
11	3	僧鎧長老御一会参内入用帳		天明３年11月10日	観音寺知事寮		横	1	
11	4		「一、山頭より御廟所江御密行…」（盛化門院御葬送納棺など次第覚書）		泉涌寺		状	1	折紙
11	5-0	［袋］			立入左京亮	僧鎧長老	袋	1	
11	5-1	［書簡］	「参来之御疎遠ニ…」（女院法事後の被下物先例に付）	巳年正月３日	立入左京亮	僧鎧長老	状	1	折紙
11	5-2	［書簡］	「…殊過時内々申上…」（御別行により12日朝御他行成し難きに付）	２月９日	立入左京亮	僧鎧長老	状	1	折紙
11	6	転住前先達而進物覚帳					横	1	
11	7		「露払　弐人…」（行列人数書上）				状	1	
11	8-1	覚	（行列所用道具数書上）		北野観音寺知事		状	1	11-8-2に巻き込み
11	8-2	覚	（雇人数・賃銀書上）	正月29日	市兵衛	方受御役人	状	1	
11	9-0	［包紙］					包紙	1	
11	9-1	［書簡］	「参来之御疎遠ニ…」（盛化門院御遺物被下の儀に付）	２月９日	経康	僧鎧大和尚	状	1	折紙

11	9-2		「御花瓶　一口…」（二月一二日盛化門院御遺物下賜につき勧修寺家への請書留）	天明４年２月	僧鎧		状	1	折紙
11	9-3	御当夜次第書					横	1	
11	9-4	［書簡］	「…然者御用之儀…」（後西院百回忌御法事仰せ出されに付）	２月９日	奥厳	僧鎧大和尚	状	1	
11	9-5	盛化門院尊儀御葬礼之儀	（各法事の導師書上）		泉涌寺		状	1	
11	10	龕前堂御作法			泉涌寺		状	1	
11	11		「義秋門院様御葬送…」（女院葬儀の次第先例控）	10月	泉涌寺		状	1	他に５月27日付新上西門院葬儀に関する次第控もあり
11	12-1	覚	（盛化門院導師の際の諸入用書上）				状	1	
11	12-2	覚	（盛化門院導師の際の諸入用書上）				状	1	11-12-1に巻き込み、後欠
11	13		「一、准后崩御則立后御作法…」（儀式次第）	天明３年			竪	1	
11	14	十三日条内	（葬式行列書上）	天明３年11月	小納戸方		状	1	
11	15	盛化門院尊儀御一会日記		10～11月			竪	1	

〈函18〉

18	1	日次記		享保２年正月	辞光庵通義		竪	1	
18	2	日並記		文政２年正月	東向観音寺		竪	1	
18	3	日並記		文政３年正月	観音寺		竪	1	
18	4	日並記		文政４年正月	観音寺		竪	1	

18	5	日並記		文政５年正月	観音寺		竪	1	
18	6	日並記		文政６年正月	観音寺		竪	1	
18	7	日並記		文政７年正月	観音寺		竪	1	
18	8	日並記		文政８年正月	観音寺		竪	1	
18	9	日並記		文政10年正月			竪	1	
18	10	雑日並		文政12年５月	上林苑勤番寮		竪	1	
18	11	日並記		天保３年正月	観音寺		竪	1	表紙「五月十日本堂屋根修復張」
18	12	日並記		天保４年正月	観音寺		竪	1	
18	13	日並記		天保８年正月	観音寺		竪	1	
18	14	日並記		天保９年正月	観音寺		竪	1	
18	15	日次記		天保10年正月	観音寺		竪	1	
18	16	日並記		天保11年正月	観音寺		竪	1	
18	17	日次記		天保12年正月	観音寺		竪	1	
18	18	日並記		弘化２年正月	観音寺		竪	1	
18	19	日並記		弘化３年正月	観音寺		竪	1	
18	20	日並記		弘化４年正月	観音寺		竪	1	
18	21	日並記		弘化５年正月	観音寺		竪	1	
18	22	御触書写		寛保２年正月	上林苑観音寺役者		竪	1	
18	23	御触写		（寛延３年）			竪	1	
18	24	御触留書					竪	1	
18	25	御触状留覚帳		安永９年11月、天明元年４月	上林苑納所寮		竪	1	
18	26	御触写		（寛延３年）			竪	1	

18	27	御触状留記		文化３年正月	上林苑役者		竪	1	
18	28	御触書留帳		弘化２年正月	東向観音寺		竪	1	
18	29	御触書留帳		弘化３年正月	東向観音寺		竪	1	
18	30	御触状留記		弘化４年正月	東向観音寺		竪	1	
18	31	御触書留帳		弘化５年正月	東向観音寺		竪	1	
18	32	御触書留帳		嘉永２年正月	東向観音寺		竪	1	
18	33	御触書留帳		嘉永３年正月	東向観音寺知事		竪	1	
18	34	西院村西京村蔵附庭帳		文化３年10月27日	上林苑観音寺役者		竪	1	
18	35	西院村西京村蔵附庭帳		文政10年11月７日	上林苑納所		竪	1	
18	36	西院村西京村蔵附庭帳		天保３年11月10日	上林苑納所		竪	1	
18	37	西院邑西京邑蔵附庭帳		天保５年11月	上林苑納所		竪	1	
18	38	西院村西京村蔵附庭帳		天保９年11月	上林苑納所		竪	1	
18	39	西院村西京村蔵附庭帳		天保10年11月	上林苑納所		竪	1	
18	40	西院村西京村蔵附庭帳		天保11年11月	上林苑納所		竪	1	
18	41	西院村西京村蔵附庭帳		天保12年11月	上林苑納所		竪	1	
18	42	西院村西京村蔵附庭帳		天保13年11月	上林苑納所		竪	1	
18	43	西院村西京村蔵附庭帳		天保14年11月	上林苑納所		竪	1	
18	44	西院村西京村蔵附庭帳		天保15年11月	上林苑納所		竪	1	
18	45	西院村西京村蔵附庭帳		弘化２年11月	上林苑納所		竪	1	
18	46	西院村西京村蔵附庭帳		弘化３年11月	上林苑納所		竪	1	
18	47	西院村西京村蔵附庭帳		弘化４年10月	上林苑観音寺		竪	1	
18	48	西院村願書写	（年貢赦免前以御願に付）	天保４年10月	御領庄屋伝右衛門ほか６名	観音寺様御役人中	竪	1	
18	49	年中諸払判取帳		弘化３年正月	東向観音寺		竪	1	

18	50	年中諸払判取帳		弘化４年正月	東向観音寺		竪	1	
18	51	年中諸払判取帳		弘化５年正月	東向観音寺		竪	1	
18	52	年中諸払判取帳		嘉永２年正月	東向観音寺		竪	1	
18	53	雑用払判取帳		享和３年５月12日			竪	1	
18	54	公儀触書留		明和２年正月	北野観音寺		竪	1	
18	55	公儀御触状		寛延３年５月			竪	1	
18	56	公儀御触状		寛延元年11月			竪	1	
18	57	寺社触状		正徳６年正月16日			竪	1	
18	58	門前触状		正徳６年正月７日			竪	1	
18	59	寺社触		享保２年正月９日	妙雲堂		竪	1	
18	60	北斗供年敷留記		弘化３年正月８日	上林苑		横半	1	
18	61	浴油供支度		寛政４年閏２月３日			竪	1	